

国立大学法人  
**東京医科歯科大学**

学務部入試課

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 TEL.03-5803-5083・5084

ホームページ <http://www.tmd.ac.jp/>



携帯サイト <http://daigakujc.jp/tmd/>



2010年 大学案内



国立大学法人

**東京医科歯科大学**

Tokyo Medical and Dental University

# 真理を探求し続ける、本物の医療人を目指す君たちへ ～自律した大学生活を望む～



本学が学生諸君に求める人間像は、あらゆる事象に好奇心を持ち、その多様性を尊重しつつも変化を求める、未知なるものへチャレンジ精神を持った努力を惜しまぬ科学者像です。しかも、その「科学」は「人が生きる」上で役立つものでなければなりません。「医学」を学び、「医学・医療」に携わる人に求められる姿そのものです。諸君の将来には、努力と苦労を超えた医療人としての無上の喜び、達成感が待ち受けています。医療人たる心構えについて、論語からいくつか、ことばを拾ってみます。

『学んで時に習う、亦説ばしからずや。  
有朋、遠きより方びきたる、亦楽しからずや。  
人知らずして懶らす、亦君子ならずや』

「いかなるときでも学ぶことを続け、繰り返し復習・練習する。真理を究める、そして世のため人のためにそれが役立つ。なんと楽しいことではないか。そんな自分を知ってか、友達が遠くから揃って来てくれる。なんとうれしいことではないか。他人が自分の才能を知らないとしても、不満も抱かず、気にかけない。なんと奥ゆかしい人柄ではないか」

医療人たるもの、生涯こんな姿で生き通したいものです。  
『学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ざれば則ち殆う』

「知識や情報をどれだけ沢山得ても、それを現実でどう生かせばよいのかは自分自身で考えなさい。また、個人の理性の中だけに頼った思案だけでは独善的になって過ちを犯すことになり兼ねないので、しっかり学問しなさい」

カントの批判哲学「知識は経験と共にはじまるが、思惟がなければ盲目となる」を連想させる孔子の発想です。

最後に、『徳孤ならず、必ず鄰有り』ということばを贈ります。  
「人間としての徳を磨き、徳を備えれば、一見孤立しているように見えても、必ず理解者、感銘を受けた人が傍に集まってくる」

大学時代に多くの良き友人、敬愛する先輩、師匠に出会い、自分自身を磨いてください。  
これこそ諸君の掛替えのない貴重な財産となります。

学長 大山喬史

## アドミッション・ポリシー

東京医科歯科大学は、医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所を有する日本唯一の医系総合大学院大学です。本学では、医師、歯科医師、コ・メディカルスタッフの育成は勿論のこと、医療・生命科学領域の研究・学問体系の構築を図りながら、一流の研究者・医療人の養成に努め、広く社会・人類に貢献することを目指しております。



## 教育理念

### 1 幅広い教養を持った感性豊かな人間の養成

医療人が向き合るのは、言うまでもなく病める人です。したがって、患者の痛みが分かり、しかも患者を取り巻くさまざまなバックグラウンドを理解してはじめて、病の適確な診断・治療・介護が可能となります。同時に、医療人は患者の生命に直接関与することから、あるいは患者のこころに接する機会が多いことから、それだけ高い倫理観と幅広い教養、そして深い人間愛に裏打ちされたコミュニケーション能力が求められます。

### 2 自己問題提起・自己解決型の創造力豊かな人間の養成

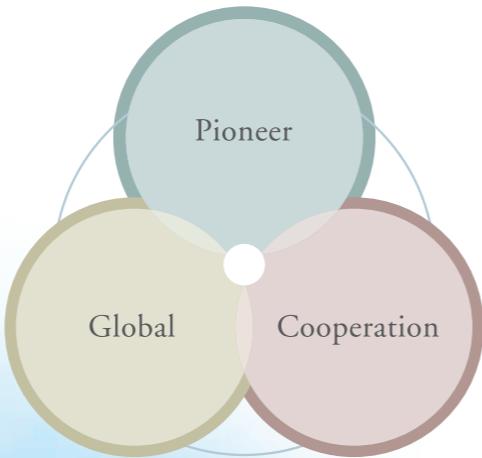
学業あるいは研究にあっては、何事も鵜呑みにすることなく、常に「なぜこうなのだろう」「これでよいのか」という疑問を持ちながら、種々の情報を集め解析して、自分で確認・解決できる能力が求められます。特に、これは独創的研究を推進する上で欠かせない能力でもあります。

### 3 国際感覚と国際的競争力に勝れる人間の養成

今後、交通手段やメディア・ネットワークの発達により、医療の分野でもその情報と時間の国際的共有化がますます進み、医療人としての国際協力、国連やWHOなどの国際機関への協力、更には宇宙ステーションでの研究協力もあるでしょう。その時に、世界の研究者と対等に、或いはリーダーとして活躍できるよう、知識・技術は勿論のこと、十分な語学力と磨かれた国際感覚を備えておかなければなりません。

ワールドワイドな教育ネットワーク。  
医学・歯学の緊密な連携。  
本学ならではの特色ある教育体制で、  
優秀かつ人間性豊かな医療人を育てる。

医療技術は、飛躍的な発展を遂げています。  
東京医科歯科大学では、医学・歯学の領域において世界を舞台に活躍できる人材を育成するために、特色ある教育体制を整えています。盛んな海外研修制度や、一大学ではなしえない教育プログラム、国立大学では唯一の教養部の設置など、その種類も多彩。目標となる選択肢は、大いに広がることでしょう。



## 医学と歯学が共存する 東京医科歯科大学の特性を最大限に活かす。

東京医科歯科大学は、国内唯一の医歯学系総合大学院大学です。医学部と歯学部の教員が相互に協力するのはもちろんのこと、学生も同じキャンパスで学ぶことで、互いの最新情報を共有することができます。興味や関心も高まり、医学の知識を基盤に歯学に取り組むことも、歯学の知識を基に医学へ発展することも可能。医学・歯学両分野にわたる人材の育成を目指しています。

### 学部・学科紹介

## Pioneer

### 医療の未来を創る、 医歯学教育・研究のパイオニア。

東京医科歯科大学は、国立大学の中で最古の歴史を持つ歯学部をはじめ、日本初の看護系大学院大学、国立大学では初めての保健衛生学科の設立など、常に医歯学教育・研究のパイオニアとして走り続けてきました。また、本学は日本でただひとつの医歯学系総合大学院大学です。医学部と歯学部の教員が相互に協力しあって、より専門性の高い教育を実施。両学部の学生が同じキャンパスで学び、サークル活動など日常生活をともにすることにより、見識を広め、将来お互いが医療の各分野におけるプロフェッショナルとなった時に必要とされるチームプレイの基礎を築くことができます。



## Global

### ハーバード大学等との積極的な 国際交流プログラムを実施。



東京医科歯科大学では、ハーバード大学、インペリアル・カレッジ、ノースキャロライナ大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校との学生交流協定、海外研修制度(学生海外派遣支援制度)に基づき、本学学生の海外派遣など国際交流に積極的に取り組んでいます。その狙いは、本学が目指す国際水準を超える医歯学教育のさらなる展開と、世界に通用する臨床医・研究者の育成にあります。また、ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育連携の下で、知識や技術にとどまらず、患者さんのための医療を優先する本来のあるべき姿・考え方、高い倫理観を備えた真の医療人養成に尽力しています。

## Cooperation

### 一橋大・東工大・東京外語大との「四大学連合」で、 学びにさらなる広がり。

さまざまな分野の学術拠点が集まり、最新情報をタイムリーにキャッチできる大都市・東京には、勉学はもちろんのこと、医療人・国際人としての教養を幅広く身に付ける上で望ましい環境もそろっています。一橋大学・東京工業大学・東京外語大学と本学が協力し発足した「四大学連合」もそのひとつ。各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、「複合領域コースの設定」「編入学の実施」「複数学士号の取得」などを実現して、一大学ではなしえない教育プログラムを提供。豊富な知識と広い視野を有する人材を育て、世に送り出しています。



### 医学部



### 歯学部



# 世界をリードする国際性豊かな医療人を育てる。

医  
学

医療人として、社会の福祉に貢献したい。  
そんな強い気概を持つ人たちを歓迎します。

医学部は、未来の日本の医学および医療を中心となって支え、さらには世界の医療、医学をリードする人材を求めてています。勉強ができるだけではなく、想像力や思いやりがあり、社会の福祉に貢献したいという気概を持つ人たちを歓迎します。想像力とは、相手の立場になって、苦しみや痛みを理解すること。患者さんの立場になったらどう思うかという想像力が、医療人にはとても必要になります。本学は、特に教育に力をいれている大学です。ハーバード大学やインペリアルカレッジ等、海外研修制度が充実しているので、学生のうちに海外で勉強する機会があります。また、本学には優れた研究業績を数多くあげている基礎医学研究室と研究所があります。東京医科歯科大学の医学論文の引用回数が、国内でもトップレベルを誇るのは、まさに研究分野での実績の表れだと自負しています。これらの実績を基に医学部附属病院では、質の高い高度な医療を患者さんに提供しています。本学の教育理念は、人の言うことを鵜呑みにするのではなく自らの頭で考え、そこに生じた問題を、自らの力で解決しようと努力することができる創造的人間の養成、幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の養成、世界の第一線で活躍できる国際性豊かな医療人の育成を目指しています。現在、医療を取り巻く環境は、非常に厳しくなっていますが、この教育理念を理解し、自分の目標のために全力で立ち向かう人を、私たちは全力でサポートします。

歯科医学・歯科医療への大きな夢をかなえる場所が  
ここにはあります。

歯  
学

歯学部は、日本初の国立歯学教育機関として、創立80余年という歴史と伝統があります。教員も、自分たちが日本の歯科医学の研究、臨床を背負っているのだという自覚を持って活動しています。その思いが実績として実を結び、最先端の医療が反映される歯科医療において、後に世界のスタンダードとして認知される革新的な技術が、本学で数多く開発されています。世の中に無いものをつくりだすということは容易ではありません。しかし、本学には日本で一番患者数の多い大学病院があります。臨床の経験を通して、問題点を認識しながら解決することで創造性を養うことができるのです。また本学は、海外との交流がとても盛んです。国際学会の場でも、本学の教員や学生が活躍しています。海外からは著名な先生が来日し、キャンパスでは多くの外国人留学生が学んでいます。さまざまな情報を得られる機会が身近にあるので、歯科医学への関心は自然に高まるでしょう。私たちは、日本だけではなく世界のリーダーを育てたいと思っています。将来の夢を持って、どんな時でも前に向かっていく、そんなあなたの大きな夢が、本学でかなえられます。



／医学部長 大野 喜久郎

歯学部長 田上 順次＼

最先端の研究と医療の場から、世界の舞台へと飛躍する



医学とは、さまざまな疾患の治療と予防、健康の保持・増進について研究を重ね、その成果を広く医療・福祉に応用するための学問です。

東京医科歯科大学医学科ではこれを踏まえ、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究が、そして附属病院では最新の医療機器と最高の知識・技術を持つ医師団による医療が行われています。

本学科の学生は、日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得することが求められます。

また、卒業後は、医師あるいは医学の教育・研究に関わるさまざまな分野の指導者として、医学・医療の進歩に力を尽くし、国内外のみならず国際社会で活躍することが大いに期待されています。

### 求める学生像

- (1) 医学・医療に深い関心を有する。
- (2) 協調性とコミュニケーション能力に優れている。
- (3) 創造性とチャレンジ精神に富んでいる。
- (4) 高い倫理性を備えている。

### 教育内容

高齢化が進む我が国の未来社会において、医療福祉はますます重要な分野となります。本学医学科は、将来のこの分野のさまざまな課題に対処できる指導的医療人の育成を目標とします。のために、自律性に富む行動力と広い視野を獲得し、高い水準の問題解決能力を開発できるよう、ハーバード大学との教育提携を通じて国際水準の医学教育を取りました。具体的には以下の構成で教育が提供されます。

1~2年次では、MIC (Medical Introductory Course) として週一日、湯島地区で行われ、医療人としての基盤を養成します。3~4年次前期は、生体と病気のメカニズムを講義・実習を通じて学びます。4年次後期(プロジェクトセミナー)は、自由選択学習に充てられ、自らが興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方・結果のまとめ方を学びます。5年次以降は、臨床実習となり基本的診察技法を習得するほか、関連病院、診療所を含むさまざまな医療現場での実習を通じて医療の全体像を体験します。その後10ヶ月にわたっての

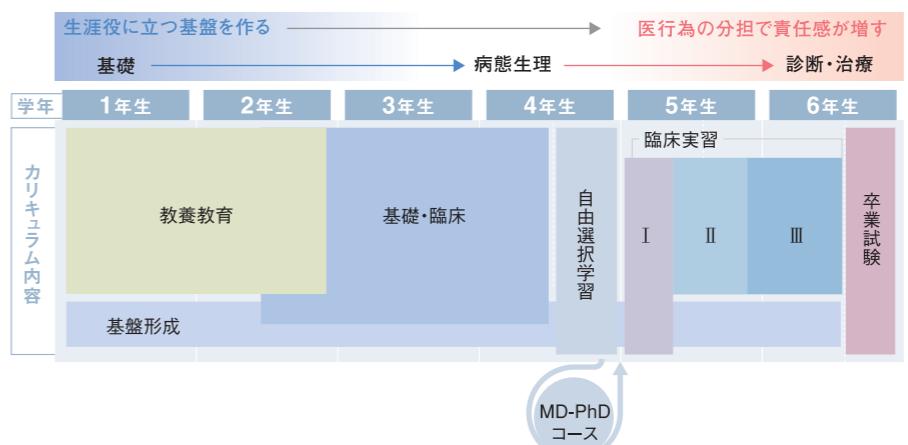
診療参加型臨床実習を通じて、臨床推論について徹底的に学びます。

リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練、論文作成の機会等も豊富に設けられています。さらに、国際化が進む将来を見据え、医学で英語を学ぶ講義が1年次後期から3年間にわたって行われるほか、提携校であるインペリアルカレッジ(4年次後期)、ハーバード大学(6年次)等、海外の大学で学ぶ機会も用意されています。



カリキュラム企画実施責任者  
田中雄二郎 医学科教育委員会委員長

### カリキュラム構成図



授業科目
多様な医師像
医学の展望
国際医療
医の原則
腫瘍学(基礎)
神経科学
免疫
感染
循環器学
消化器
呼吸器
腎・体液制御
生殖・発達・加齢
代謝内分泌
血液
社会医学
人体構造総論
細胞の構造
細胞の機能
人体発生学
人体解剖学
臨床解剖学
組織学
生理学
生化学
薬理学
病理学総論
CPE
衛生学
公衆衛生学
医動物学
法医学
医事法学
老年病学
膠原病・リウマチ学
小児科学
神経精神医学
外科学
整形外科学
皮膚科学
泌尿器科学
眼科学
耳鼻咽喉科学
放射線医学
産科・婦人科学
麻酔・蘇生学
臨床実習 I
臨床実習 II
臨床実習 III
口腔外科学
先端医学
遺伝子と生命
メディカルインフォマティクス(MI)
統計
医学英語
救命救急医学
形成外科学
頭頸部外科学
心療・ターミナル医学
基礎臨床総合講義
臨床間連講義
臨床検査医学
自由選択学習

# 将来の自分を培う魅力あるカリキュラム。

医学の基盤を確かなものにするために、問題解決能力、自己学習能力を養い、医学を学ぶ面白さを実感できます。さらに、治療チームの一員としての役割を担うことで、患者さんの信頼に応え、医師としての喜びを体験できます。

## MIC (Medical Introductory Course)

1~2年次に週一日、湯島地区で行われる、医療人としての基盤形成コースです。病院見学、医師、医学研究者、看護師、新患の患者さんと半日を過ごす実習から始まります。医学の展望、多様な医師像のように将来を思索する講義のほか、医療倫理、医療統計、分子生物学、発生学等、医学の基盤をなす考え方を学びます。



MICは医学を学ぶ医科歯科教育プログラムの一つで、1年次から医学系の講義を受けたり病院実習を体験することができます。講義では、人体発生学や遺伝学、免疫学などを学びます。人体がどのように形成されるか、どのようにして自分たちは生まれてくるか、など普段から疑問に思っていたことが次々と明らかになってくる講義は、どれも興味深いものばかりでした。また、入学して間もないころに、実際に白衣を着て一人の医師と病院内で行動を共にするシャドーイングという実習があります。希望と不安を胸に大学に入学した私たちにとっては、とても刺激的な体験でした。この実習を通して、今まで漠然としていた「自分は医師になるんだ」という思いが、より現実的なものとしてイメージできるようになりました。そして医師になることへの責任の重さを再認識させられ、緊張感をもって勉学に励もうと志氣を高めることにもつながりました。

青山二郎さん (医学部 医学科3年)

## 医学英語教育

科学に関する世界の共通言語は英語です。21世紀に地球的規模で働く医師・医学研究者は、新しい基礎・臨床知識を世界に向けて発信し、国際舞台で意見交換できる力を身につけることが求められています。「医学英語」コースでは、「健康・医学」関連トピック記事や臨床症例について、英語を使って情報を理解・解釈し、議論するトレーニングを行っています。



## 統合型教育

診療現場や研究領域における問題解決型思考能力や、生涯学習に必須となる自己学習能力を養成することを目的として、統合型教育を実施しています〔消化器系(3週間)、腎・体液制御(2週間)、呼吸器系(2週間)、腫瘍学(1週間)〕。一人の患者さんのストーリーが1週間3回のPBLチュートリアル(PBL=Problem-Based Learning)の略で、課題に立脚しながら学習を進める方法で、少人数の学生がチューター(教員)の助言を得ながら個々の問題解決に必要な事柄を学びます。)で順次紹介され、その内容が講義や実習と関連して進行します。学生は実際の症例を通じて知っておくべき内容を通して観察し、問題意識をもって取り組んでいます。また、チュートリアル討論や関連講義には基礎医学内容も統合されており、基礎医学領域への関心が誘導されるよう配慮されています。



### [統合型教育を学んでの感想]

医学部医学科では、短期間(1~3週間)で一つの科目を集中して学習する統合型教育を導入しています。この期間は他の科の授業がないため、効率良く学ぶことができました。また、その中にはPBLという、少人数のグループで行う授業があります。ここではある患者のシナリオが配布され、学生だけで話し合い、問題点や疑問点を抽出し、自ら課題を決め、調べ、グループ内で発表し、知識を共有します。そのため、医学的な知識を得ることに止まらず、医学的な情報にアクセスすることやプレゼンテーションをすることに慣れることができました。皆さんも、ぜひこの統合型教育を体験してみてください。



## 自由選択学習(プロジェクトセメスター)

主な講義・試験および基礎実習を終えた4年次後期に設定されている最長6ヶ月のコースです。興味をもった分野について集中的に学ぶことにより、科学的視点を有する医師としての基盤を養成します。本学の諸講座、附属研究所の他、学外研究機関、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ(ロンドン、英国)における履修の機会もあります。全学生の研究成果は、発表会の場においてポスター展示及びプレゼンテーションが行われ、お互いに共有することになります。



プロジェクトセメスターでは、人体病理学の講座で脳腫瘍の染色体異常にについて半年間、研究を行いました。多くの方にご協力いただき、良い経験を積めたと思っております。実際の研究では、実験計画通りに進むことは少なく、そのつど考えて進まなければなりません。そういった思考のプロセスは将来、研究者にならなくとも必要とされるものであり、必ず後々の財産になると思います。みなさんもぜひ入学して体験してみてください。

富井 翔平さん (医学部 医学科6年)

## 診療参加型臨床実習

クリニック・クラークシップともいわれる実習で、患者さんの診療に参加し、診療の一端を担うものです。5年次の秋から10の診療科(内科3、外科2、ER1、小児科1、産婦人科1、選択科2)を各4週間ずつローテーションします。医学部4年半にわたり築いた知識・技能を実地に応用する最終段階であり、集大成といえるものです。治療チームの一員として役割を担うことになり、医療面接、身体診察、臨床推論、カルテ記載等が求められます。この実習は、自立した医師として患者さんの身体的・精神的及び社会的問題を把握し、適切な医療を遂行するため、患者さん中心の医療姿勢、問題抽出及び解決能力、基本的手技を修得することが目標です。患者さんの信頼に応え、疑問を解き明かしてゆく医師としての喜びを体験する機会でもあります。



臨床実習では上級医、研修医からなる診療グループの一員となり、受け持ち患者さんの問診、診察、カルテの記載、病棟カンファレンスでの他の先生への経過説明などさまざまなことを任せられます。毎日顔を合わせる患者さんの状態を把握して説明しようと思うと自然と知識が必要となりますし、教科書の記載は記憶に残りづらくても実際に出会った患者さんがどうであったかは忘れないでとてもよい勉強になります。医学知識以外にも患者さんとの接し方や、発表の仕方など学ぶことはたくさんあり、患者さんの協力を得て行う身体診察も回数を重ねるごとに自信を持って行えるようになってきました。医学部の実習としてはとても本格的ですし、グループの一員として扱われることでやりがいを感じます。大学で先輩だった研修医の先生の下について実習し、その働きぶりに刺激を受けるのも本学ならではだと思います。

古荘 泰佑さん (医学部 医学科6年)

# 国際的医療人育成のために。

21世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、言語のみならず、品格、知識、態度、技能いずれにおいても、国際的に通用する医学のリーダー的な人材を育てます。

## インペリアルカレッジとの交換留学プログラム

4年次後期のプロジェクトセメスターの期間中に、毎年4名の学生にイギリスの名門校インペリアルカレッジに留学する機会が与えられます。一流の研究者に接しながら、現地の学生とともに講義でディスカッションやプレゼンテーションを学び、その後各分野にて研究を行います。インペリアルカレッジからの学生の受け入れも毎年実施しており、学生同士の活発な交流を行っています。

イギリスでも最大規模を誇る医学部を持つImperial college London (ICL) の研究室で5ヶ月間、神経科学の「神経変性疾患に関わる分子と性差の関係」について調べました。海外留学ならではの素晴らしい体験がいくつもできましたが、その中でもさまざまなバックグラウンドを持った研究者達がお互いに切磋琢磨しながら活発な議論をかわしている現場を肌で感じることができたことは非常に刺激的でした。知りたいという熱意や好奇心を持って臨めば、一留学生である私にも研究者の誰もが丁寧に対応してくれました。

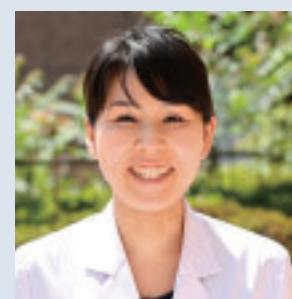
さらに海外から日本を客観的に見たことや外国人の日本観を知ることができたことで、新たに日本の良い面、逆に今後国際社会の一員として日本が改善し得る点に気づくことができたことも留学ならではの経験でした。

中村 蓉子 さん（医学部 医学科 5年休学中 大学院医歯学総合研究科博士課程1年 MD-PhDコース）



## MD-PhD（医学研究者早期育成）コース

優れた医学研究者を育成するための早期医学研究トレーニング特別プログラムです。このコースは、大学院教育を従来のように医学部卒業後に開始するのではなく、医学科4年次あるいは5年次修了後に、医学部の学籍を一時離れ、大学院に入学。学部教育での基礎的な医学教育を発展させ、体系だった高度の医学研究を経験することを目的としています。大学院在学中に博士論文を完成した者は審査を行い、合格者には博士の学位が授与されます。大学院修了後は医学科5年次あるいは6年次に再び戻り、医師免許の取得を目指すことになります。



医学科4年次に、システム神經生理学教室で研究を始め、5年次修了後、脳の研究に専念したいと思い、医師研究者育成のため新たに導入されたMD-PhDコースの大学院に進みました。眼球運動の指令信号が脳内のどのような神經回路で生成されるかをテーマに、左右上丘間の鏡像的興奮と拮抗的抑制の存在を明らかにしました。3年で博士号を取得した後、医学科6年次に戻り卒業して医師免許を取得しました。基礎医学研究を通して、一つのことを深く掘り下げる学問のおもしろさを知り、Gordon Research Conference を含め、シエナ、パリ、ワシントン、セヴィラ、ボストン、シアトル、オックスフォード、ニューヨーク等での国際シンポジウムで講演する機会をいただきました。その際、世界の一流研究室を訪ね、議論したり、教えを受けたりする機会に恵まれました。基礎医学や臨床研究に興味がありPhysician-scientist(アカデミックドクター)を目指される方に、適したコースだと思います。

高橋 真有 さん（研修医） 医学部 医学科 平成20年度卒業

## パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育連携

本学は2002年よりパートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルと提携しています。医学部医学科の正規カリキュラムとして「ハーバード大学の学生とともに学ぶ臨床実習」を設定して、毎年6名程度（2009年は8名）を派遣しています。また、教員を相互に派遣して研修を行うなど教育の質のさらなる向上にも積極的に取り組んでいます。ハーバード大学医学部は、研究面のみならず、臨床面においても世界トップクラスの評価を受けています。本提携は国際水準の医師を育成すると共に、世界をリードする医師・医学研究者を養成していくことを目標としたものです。

## 学生派遣プログラム

この派遣プログラムは、ハーバード大学医学部関連病院で臨床実習に参加するという大変有意義な機会を提供しています。6年次初めの12週間、派遣された学生は4週間ごとに計3つのローテーションに配属され、ハーバード大学医学部学生と同様に臨床実習に従事し、チームの一員として診療に参加します。派遣のための選考は、5年次に英語による志望動機書と英語による面接で行われます。派遣が決定した学生には、アメリカで臨床医としての経験を積んだ本学教員が中心となり、9ヶ月間にわたり、病歴聴取、診察、症例提示、記述などの実践的なトレーニングを実施します。

2004年に始まったこの派遣プログラムは当初4名程度でしたが近年は毎年8名程度、2009年は8名を派遣しています。今後はこのような海外での臨床実習の機会を拡大し、より多くの学生が海外の医療機関で臨床実習を行える体制作りを目指しています。



2007年派遣学生



2008年派遣学生とハーバード大学教員



6年次にハーバード大学関連病院で得た経験は、私にとってとても貴重なものでした。「病棟における教育・学習」という考え方方がしっかりと確立しているアメリカでは、診療参加を通じて学生は多くの事を学ぶ機会があります。派遣される私達には、言語の壁も乗り越えて積極的に患者さんや医療スタッフと関わり、受け身ではなく自ら学び吸収しようとする態度が求められるわけです。このような自主的な姿勢は、研修医となつた今より大切なものとして実感されます。生涯学習と言われる医療人になるにあたり、本学にはそのスタートを切るこれ以上ない環境があると言えるでしょう。



秋山 弘樹 さん（研修医） 医学部 医学科 平成19年度卒業



ハーバード大学関連病院では、神経内科、消化器内科、腎臓内科を1ヶ月ずつ回りました。ハーバードの学生と全く同じように、多数の患者を割り当てられ、各患者の病態把握・今後の治療方針の立案といった役割を任せられるので、大変ではありますが、やりがいのある充実した毎日でした。この実習を通じて、医療をより広い視野で見ることができるようになり、言語・文化を越えて患者さん・家族と向き合い、チームの一員として診療に加わることで、医療に携わることの素晴らしさを再認識することができました。今後一人のプロフェッショナルな医療人として、最良の医療を提供できるよう努力していきたいと思います。



中田 徹 さん（研修医） 医学部 医学科 平成19年度卒業

## ●講義・実習風景



若月 信さん  
医学部 医学科 6年

東京医科歯科大学で過ごす6年間は多くの機会に恵まれています。東京の都心に位置しているため機会を生み出す有利な環境であるのはもちろんのことですが、向上心・向学心の非常に高い学生と出会い、競争し協力し合えることが何より貴重であると感じます。

医学教育の面でも、基礎研究に携わる期間が設けられていること、臨床実習ではチームの一員として患者さんと接する実践的な場が与えられていることなど、これから医師の道を歩む上で有意義な機会がたくさんあります。これらの機会は教育委員会のみなさんが日々教育改革を熱心に行なった賜物とも言え、学生の意見は積極的に取り入れられてカリキュラム内容は柔軟性に富んでいます。

## OB's Voice



東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科  
膠原病・リウマチ内科学分野 准教授  
上阪 等さん  
(医学部 医学科 昭和58年度卒業)

高校恩師の薦めで本学を目指した僕には、当時、「駅前の古びた建物の国立医学部」くらいの認識しかありませんでした。しかし、今や、教育、研究、病院棟が次々に刷新され、すべてが生まれ変わっています。医学教育を見据えた教養部教育、生涯学習を考えた基礎医学教育、国際化をはらんだ臨床医学教育。各部署が一体化して、卓越した卒業生を輩出しています。卒後研修では、附属病院のプログラムが全国的人気を博しています。医学研究では、医療のための研究が重視され、展開されているのが本学の特徴です。

まずは、サークル活動も含め、楽しい学生生活から始めましょう。知らぬうちに一流の医師の卵に育っているはずです。新しく伸び続ける東京医科歯科大学が、新しい君たちを待っています。



## 1. 2. 3. 4.

## [人体解剖学実習]

人体の構造を学ぶため、3年次が14週かけ週2~3回行う実習。人体解剖学の講義後に、脳を除く人体の各部位を一体につき6人ほどで解剖。献体者に感謝と敬意を表し、実習前には必ず黙祷が捧げられる。

## 5. 6. 7.

## [病理学実習]

講義と実習で構成され、顕微鏡や肉眼で臓器別に病気の発生から炎症までを実感。4年次の4月から10週にわたり週2回ずつ、実際の解剖の資料で病気の特定までを行う。

## 8.

## [シャドーイング]

1年次に5つの班を編成し、外科と内科に分かれて医学部附属病院の医師につき、診療の現場を見学する。1年間に5回設定。早期から臨床の実際を実感させる、本学ならではの体験型実習のひとつだ。

## 9. 10.

## [クリニックル・クラークシップ I]

臨床実習を前に、5年次前期に3ヶ月かけて行われるトレーニング。模擬試験に合格すると臨床実習で患者さんの診察ができる。写真は、日本最大のスキルラボでの胸部シミュレーターを使った肺の聴診。

## 11.

## [クリニックル・クラークシップ III]

5年次後期から6年次前期にかけ、1グループ4~5人に分かれ、医学部附属病院の各診療科を4週間ずつ回る。必修の診療科と選択の診療科があり、実際に患者さんを診療する機会もある。

知識と技術を精錬し、  
実践と研究を通して看護のエキスパートを目指す



看護実践能力の高い看護師を養成するため、体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図ります。

臨地実習は、看護技術の到達点を確認しながら学習できる独自の教育システムを用いて、医学部附属病院などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルに対応した看護を開します。卒業研究は3年次から取り組み、ゼミを通して研究の段階を踏み、研究が実践の質を高めることを体得することができます。

また、日本初の看護系大学院大学として、臨床現場のスタッフと実践・研究のさまざまな側面で連携を図るとともに、卒業生をはじめとするたくさんの人々の生涯学習を支援しています。

#### 求める学生像

- (1) 看護学・保健医療福祉に深い関心がある。
- (2) 豊かな感性と優れたコミュニケーション能力を有する。
- (3) 論理的思考力、問題解決能力を備えている。
- (4) 倫理的感受性と探究心に富む。

#### 教育内容

看護学専攻では、医療の高度化を支える自然科学・技術に関する基礎的な理解と、生命倫理、激動する社会や多様な文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的素養とを併せもつ看護実践者を養成します。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルに向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視しています。

1年次には、教養部で他学科の学生と共に教養科目（人文・社会科学・自然科学・外国語など）を合同で履修し、週1回は看護学専攻教員、教養部教員の協力による連携教育科目（生命科学、医療人間論、バイオエシックス）と看護専門科目（基礎看護学、看護心理学、看護の統合と実践）を学び、病院見学などの体験学習を行います。

2年次前期には、看護学に関連の深い解剖学、生理学、病態学、薬理学、栄養学などの専門基礎科目を講義と演習によって集中的に学びます。

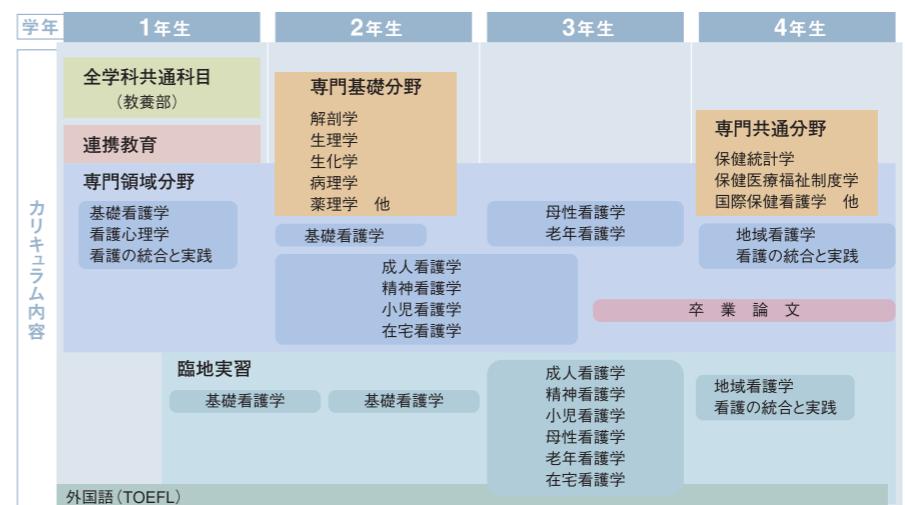
2年次で学ぶ看護学専門科目の軸は基礎看護学の講義と演習で、成人、小児、精神、在宅看護学の講義は、2~3年次にかけて開講されます。母性、老人看護学は3年次前期に学び、保健師資格取得に必要な地域看護学関連の科目は主に4年次で学びます。

臨地実習は1年次の基礎看護学早期体験学習に始まり、3年次後期に成人、精神、小児、母性、老人、在宅看護学、4年次に地域看護学、看護の統合と実践の実習を行います。臨地実習では援助的な対人関係を確立する能力の育成にも力を入れ、その準備として、2~3年次に自己理解を深める技法や、相談面接技法の訓練、患者会リーダーとの交流などを行います。

また4年次には少人数制のゼミで卒業研究に取り組みますが、その準備として、3年次後期より看護学研究方法と理論的背景について学びます。

このほか、国際的な研究や実践を担う力を高めるため、全学年で外国語の授業が行われています。

#### カリキュラム構成図



授業科目
■専門基礎分野
解剖学
生理学
生化学
薬理学 I・II
病理学
微生物学
栄養学
疫学
病態学
英文講読 I・II・III
基礎合同演習
■専門共通分野
保健統計学
医療情報学
国際保健看護学
産業保健学
保健医療福祉制度論
保健医療福祉制度論演習
卒業論文 I・II
■専門領域別分野
基礎看護学 I・II・III
基礎看護学演習 I・II
基礎看護学実習 I・II
成人看護学 I・II・III
成人看護学演習
成人看護学実習 I・II
精神看護学
地域精神看護学
精神看護学演習
精神看護学実習
看護心理学
小児看護学 I・II
小児看護学演習 I・II
小児看護学実習
母性看護学 I・II・III
母性看護学演習
母性看護学実習
老年看護学
リハビリテーション看護学
老年看護学演習
老年看護学実習
地域看護学 I・II・III
地域看護学演習
地域看護学実習
在宅看護学 I・II
緩和ケア看護学
在宅看護学演習
在宅看護学実習
看護の統合と実践 I・II
看護の統合と実践実習

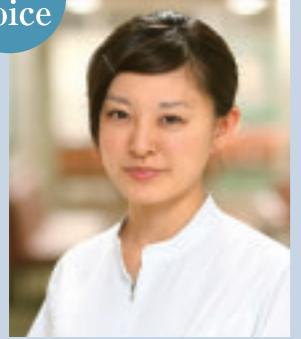
## ● 講義・実習風景



樺島 稔さん  
医学部 保健衛生学科 看護学専攻4年

看護学専攻では、2~3年次前期までに基礎医学や疾患の病態などの知識と、看護の知識や技術を学びます。3年次の後期からは各専門領域の実習が始まります。それまでに学習した知識や技術を統合し、さまざまな患者さんに合わせたケアが行えるよう実践を学ぶことができます。最初は不安でしたが、仲間と助け合い、先生や患者さんに教わりながら、充実した実習になりました。今はその経験を活かし、自分の興味のあるテーマについて研究しています。クラスは少人数で仲が良く、先生との距離も近いので、アットホームな雰囲気の中で学生生活を送っています。

## OG's Voice



東京医科歯科大学医学部附属病院  
看護部  
佐藤 千景さん  
(医学部 保健衛生学科 看護学専攻  
平成16年度卒業)

学生時代は、実習やグループワークを通して、看護の考え方や技術について学びました。良き仲間に恵まれ、楽しい学生生活を送ることができました。現在、病棟の看護師として働き、辛いことや悩むことは多いですが、職場のスタッフに支えられながら多くのことを学んでいます。さまざまなスタッフ、患者さんとの関わりの中から毎日新しい発見があり、日々成長できる職場だと思っています。患者さんが笑顔で退院していく姿や、退院後に元気な姿を見せにてくれるときはとても感動し、やりがいを感じます。



## 1. 2.

## [看護心理学・精神看護学]

1~3年次に行われる授業で、身体疾患・精神疾患有を持つ患者・家族の体験談や、ボディワーク・絵画療法の実際に触れる機会を設けています。写真は、その風景と作品。自己理解と人間理解を深めながら感性を磨き、共感性を養うことにより、コミュニケーション能力を高める実践的な心理学を学ぶ。

## 3. 4.

## [小児看護学演習]

3年次の9月末からスタートする臨床実習を控えての事例学習。4月から約3ヶ月間に週に一度、講義と演習が行われる。病児の事例を用いて小児看護に必要な知識を自ら学びながら家族も含めた看護計画を作成し、発表。乳児モデルを使った演習も実施している。

## 5.

## [在宅看護学]

Iを2年次に、IIを3年次にそれぞれ8回ずつ行う。写真は訪問介護をしている方の体験談を聴講しているところ。3年次は講義の他にも演習や訪問介護ステーション、病院の退院支援部門、地域包括支援センター等での実習も行われる。

## 6. 7.

## [老年看護学演習]

3年次に老年看護学の基本的な技術として、フィジカルアセスメントを学ぶ。高齢者の身体的特徴をふまえて、全身を観察する。写真は、耳鏡や音叉を用いて、耳の状態や音の伝わりを観察しているところ。

## 8. 9.

## [看護ゼミ]

4年次の4月から12月の卒論発表会まで通して行われるゼミ。3~8人のグループに分かれ、学生ごとに異なるテーマでトレーニング、調査、データ整理、発表を行う。8は精神看護学で情報収集の準備の討議。人文・社会科学など幅広い研究分野を扱っている。9は生体・生活機能看護学で生体反応のモニタリング中。

知識・技術・実践から  
学問を極め21世紀の保健医療に貢献する



国立大学検査系のパイオニアとして  
医学・保健医療における検査技術学の  
教育・研究を行い、豊かな教養と幅広い  
専門知識を持つ医療人を育成すること  
を目的としています。専門的・学術的な  
視点に立った教育を行い、21世紀の保  
健医療に対する社会の要請に応えられ  
る人材を養成しています。

その特徴は、先端医療技術の進展に  
対応できる学際的視野と研究能力を備え、  
医学・保健医療における検査技術の発  
展に寄与し、新たな世代の指導にあた  
る研究者・教育者を養成する点にあります。  
平成元年に発足以来、全国の国立大  
法人の先陣として本学を巣立った卒業  
生たちが、教育・研究機関の指導者・研  
究者、病院の臨床検査技師として活躍し、  
その将来を期待されています。

#### 求める学生像

- (1) 医学・保健医療に深い关心を有し、患者・要介護者や社会に対する奉仕的精神、責任感、倫理観を有する。
- (2) 豊かな人間性をもち、観察力、論理的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
- (3) 継続的に自己啓発し、探求心が旺盛である。

#### 教育内容

- 1) 専門的かつ学術的な視点から教育を行い、臨床検査学の基礎から最先端に至る知識と技術を修得する。
- 2) 検査管理能力を修得する。
- 3) 医療や医学研究に携わる者としての基本的な教養、倫理観、責任ある態度を身につける。
- 4) 新しい臨床検査技術の開発や関連分野における独創的研究の基礎となる、科学的な思考法を身につける。

教養部で1年間、全学共通科目を履修した後、専門課程の履修に入りますが、1年次前期には専門担当教員による先端医療技術論の講義が組まれています。2年次の講義は基礎医学、3年次の講義は臨床医学を主体に、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮しています。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病因・病態学系、検査管理・社会医学系、総合分野などに大別された各科目について臨床検査学の講義と実習が行われます。

2~4年次に多彩な選択必修科目、自由選択科目を開講している点が本学の特徴で、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材

料工学研究所と連携した講義が組まれています。

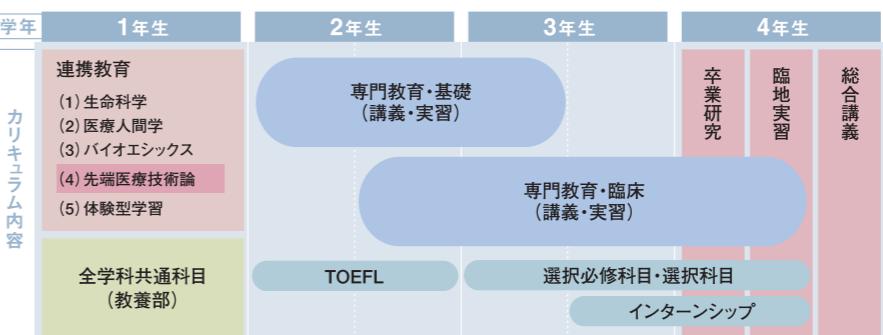
4年次前期には卒業研究として学内・学外の様々な関連分野で研究を実施し、研究発表や研究論文の作成を行ない、各種の研究分野への学問的探求心を養っています。4年次後期には臨地実習と総合講義が組まれており、臨地実習では第3学年までに学んだ臨床検査の知識を整理し、実際の現場を体験するほか、病院、企業、研究所などのインターンシップも行っています。

卒業試験も兼ねる総合講義では、臨床全般にわたる科目についてup-to-dateな知識を整理しつつ、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学びます。

また、社会のニーズに対応した教育内容の充実にも力を入れており、平成17年度から健康食品管理士となるための新たな自由選択科目として「健康食品総論」と「薬理学」の2科目が整備されました。

- 卒業時に取得できる学位・資格  
学位: 学士(保健学)  
資格: 臨床検査技師国家試験受験資格  
健康食品管理士受験資格  
(認定試験4年次11月予定)

#### カリキュラム構成図



#### 授業科目

- 人体構造学講義
- 人体構造学実習
- 病理検査学講義
- 病理検査学実習
- 血液検査学講義
- 血液検査学実習
- 生化学講義
- 生化学実習
- 分析化学検査学講義 I・II
- 分析化学検査学実習
- 医用システム情報学講義 I・II
- 医用システム情報学実習 I・II
- 生理検査学講義 I・II
- 生理検査学実習 I・II
- 病原体検査学講義 I・II
- 病原体検査学実習 I・II
- 免疫検査学講義
- 免疫検査学実習
- 遺伝子・染色体検査学講義
- 遺伝子検査学実習
- 検査管理学
- 医学情報処理演習 I・II
- 公衆衛生学講義
- 公衆衛生学実習
- 医療概論・関係法規
- 臨床病態学 I・II
- 総合講義
- 臨地実習
- 卒業研究
- 医学英語演習 I・II

#### ■選択必修科目

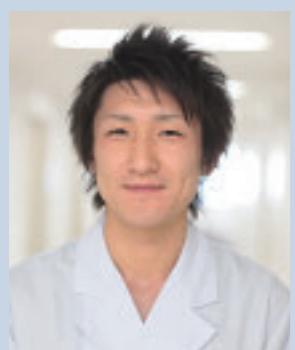
- 遺伝学
- 神経科学
- 生体医工学
- 臨床心理学
- パフォーマンス論
- 分子生物学
- 細胞のエネルギー獲得と利用のしくみ
- 科学の中の化学
- 心臓生理学
- 癒しの生化学・分子生物学
- 電子顕微鏡学
- 睡眠科学
- 知的財産とその活用

#### ■自由選択科目

- 健康食品総論
- 薬理学

# Voice

## ● 講義・実習風景



山崎 駿介さん  
医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻4年

検査技術学専攻は、分析化学・遺伝子・病原体などの医学的な知識を必要とする分野を学習することができます。

2~3年次では、本格的な実習が始まり、採血・生理機能検査・顕微鏡や測定機器を扱いながらの実験・観察などがあり、色々なことに興味を持つことができます。

4年次では、卒業研究があり約半年間、研究室で行います。クラスは、人数が少ないこともあって実習を協力したり、普段の生活でも良い関係が築けています。進路は、病院・企業・大学院などがあり将来への選択肢を広げていけます。

### OG's Voice



東京医科歯科大学医学部附属病院  
輸血部 臨床検査技師  
佐藤 由利香さん

(医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻 平成19年度卒業)

この仕事は患者さんの病気の診断や治療に必要なデータを得るために血液や尿などの成分分析や脳波・心電図などの生理機能検査を行います。輸血部では、血液を専門に扱い、輸血が安全かつ適正に行われるよう必要な検査や輸血製剤の管理を行っています。緊急の輸血が必要とされることも多く、正確さだけでなく、迅速さも要求される仕事です。

多くの医療従事者と連携して仕事をすることで、臨床検査技師は病院にとって、重要な役割を担っていることを実感できます。毎日、やりがいを感じながら充実した日々を送っています。



### 1. 2.

#### [遺伝子検査学実習]

遺伝学と分子生物学を基に、遺伝子の構造や疾患との関連性、遺伝子解析・検査法について学ぶ。3年次後期に週3回1ヶ月間行われ、ヒトの遺伝子情報の倫理的な扱いについても学習する。

### 3. 4.

#### [病原体検査学実習]

感染症の原因微生物を検体から検出・同定し、薬剤感受性試験を行い診断・治療に役立てる。3年次前期に週2日、3ヶ月間行われる。

### 5.

#### [人体構造学実習]

2年次後期の後半に1ヶ月間、週3回行われる。人体そのものと、人体を構成する細胞から器官までの基本的な形態と構造について、模型や実物の臓器や骨などを観察・スケッチしながら学ぶ。

### 6. 7. 8. 9.

#### [分析化学検査学 講義・実習]

生化学の検査を理論的に学ぶ授業で、血液や尿などに含まれる生化学成分を分析し、試薬を用いて、その色の変化から目的成分がどの程度含まれているかを測定する。3年次に週1回、1年間行われる講義と後期の4ヶ月間、週2回行われる実習で成り立っている。

### 10. 11.

#### [生理検査学実習]

呼吸器や心臓、血管などを心電図、エコーなどを用いて検査する。脳波や筋電図を利用して、神経や筋肉の機能を診断する。実際に患者さんに接して行う検査について学ぶ実習である。

### 12. 13.

#### [病理検査学実習]

病理診断のための標本を作製し観察する実習で、2年次後期に4ヶ月にわたり週1回行われる。病巣の組織を採取してスライス、染色し、顕微鏡で観察する。がんなどの診断に役立てる。

### 14.

#### [医用システム情報学講義・実習]

この講義・実習は2~3年次に行われる。講義では電気・電子回路、通信、計測、制御、コンピュータ工学などを基礎に、様々な検査・診断機器の動作原理や性能について学び、実習では機器の保守・安全管理に関する技術を習得する。

臨床の現場で実践的経験を積み、歯科医療をリードする人材となる



歯学部歯学科では創立80年を超える日本初の国立歯学教育機関として、国際的な視野を備え、わが国の歯科医療を牽引する人材の育成を目指しています。歯、骨、歯肉、摂食嚥下、発音・発声など学ぶ内容は多彩。8~12週間でテーマ別のユニット授業を行うモジュール制を採用し、5年次の秋から6年次には本学科の大きな特徴のひとつである診療参加型の臨床実習が行われます。

問題を自ら発見し解決する、自己学習能力を高める授業にも力を入れており、e-learning教材による教育や、動画・模型を用いたシミュレーション教育も充実。海外の大学との学術交流が盛んで、たくさんの留学生が学び、国際交流も活発に進められています。

### 求める学生像

- (1) 豊かな人間性と他人に対する思いやりのある人。
- (2) 柔軟で幅広い視野をもっている人。
- (3) 歯科医学・歯科医療に興味をもち、それを十分修得できる基礎学力のある人。
- (4) 問題解決や知識追求に対する意欲をもち、行動力のある人。
- (5) 歯科医療を通して国民の健康維持・増進に貢献したい人。
- (6) 適切な社会性をもち、指導的役割を果たせる積極性のある人。

### 教育内容

1~2年次は教養部で全学共通科目を履修。3~6年次は歯学部歯学科で基礎・臨床の専門科目を履修します。

1~2年次には教養部と歯学科との連携教育も実施。医学歯学教育の中の人間的な視座を持ち込むことを目標とした「行動科学基礎」、生物学・化学を総合的に扱う「生命科学」、歯科医学と歯科医療の現状を認識し医の倫理を理解して、医療人としての基本的態度を修得する「早期臨床体験実習」、「歯学最新情報」、「医療と造形」などについて、湯島地区にて週1日履修します。

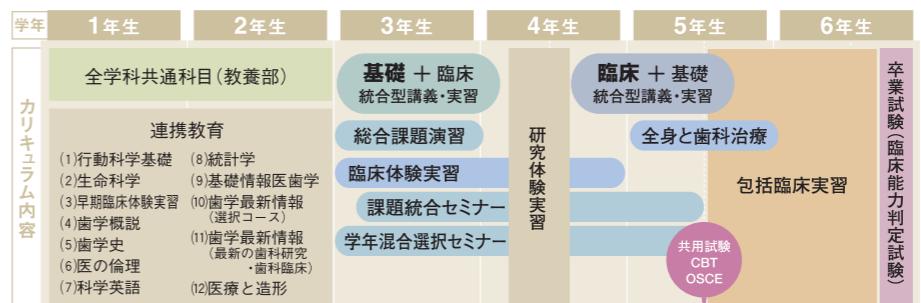
3年次以降に履修する専門科目には、基礎と臨床を統合した講義と実習があります。そのほか臨床医学等がありますが、従来の専門科目別に細分化された講義・実習ではなく、モジュール制という大きな枠組みの構成単位で履修するカリキュラムシステムとなっています。また、自主的学習態度、論理的思考能力を養い問題解決の方法を習得するテュートリアル教育(総合課題演習)も行っています。

2年次から5年次には、学年を超えた選択科目(学年混合選択セミナー)があり、4年次前期には研究体験実習期間を設け、本学医学部やその他の附属研究機関を含めた基礎あるいは臨床研究分野において、約2ヶ月間研究活動を行います。

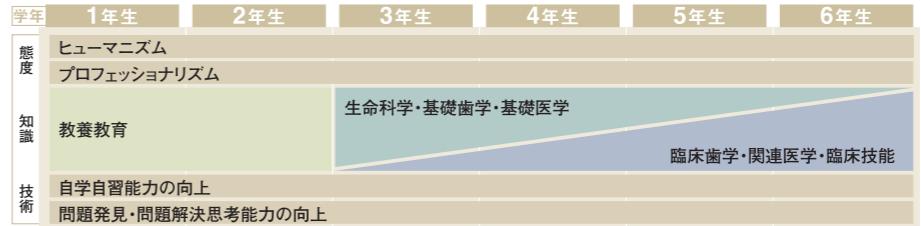
そして5年次後期から約1年間は指導教員の下、附属病院で患者さんに接しながら医の倫理、包括的歯科医療の理論と実際を実践体得する臨床患者実習を実施。附属病院には高齢者歯科学、障害者歯科学、インプラント・口腔再生医学、疼痛制御学、歯科心身医学、顎顔面補綴学などを母体とした診療科・部も設置されており、21世紀に求められる新しい歯科臨床医学分野の教育が行われています。

\* 5年次の臨床実習開始前に全国の歯学生に対して共用試験CBT(Computer Based Testing)とOSCE(客観的臨床能力試験)が実施されます。各大学の合格判定基準を満たした学生が臨床実習に進みます。  
※ 卒業後も臨床各科で研修医、専攻生、大学院生に対して充実した専門的研修が行われています。なお、平成18年4月以降の歯科医師免許取得者から、卒業後1年以上の臨床研修を行うこと(臨床研修必修化)が法律で定められています。

### カリキュラム構成図



### 概念図



授業科目
■連携教育科目
行動科学基礎
生命科学
早期臨床体験実習
歯学概説
歯学史
医の倫理
科学英語
統計学
基礎情報医歯学
歯学最新情報 (選択コース+最新の歯科研究・歯科臨床)
医療と造形
■モジュール科目
総合課題演習
歯科医療入門
生命の分子的基盤と細胞の機能
人体の構造と機能
学年混合選択セミナー
課題統合セミナー
病理
感染と生体防御
生体材料
臨床体験実習
歯科医療基礎
研究体験実習
咬合育成・発達
う蝕と歯齦疾患
咬合回復
歯周病
顎口腔医療
全身と歯科治療
臨床情報処理
包括臨床実習

# 歯科医学・歯科医療の向上に、 国際的視野から貢献できる人に。

全ての歯科医学領域にわたる教育を行う本学は、研究面、そして歯科臨床においても世界のスタンダードとして認知されているものが数多くあります。国内はもちろん、世界においてもリーダーシップを發揮し、社会への貢献ができる人材育成を目指しています。

## 多くの外国人留学生が学ぶキャンパス

東京医科歯科大学は「国際性豊かな医療人と世界的な競争に打ち勝つことのできる研究者の養成」を大学の基本的目標の1つにしています。大学の国際化を測る一つの指標として、留学生の受入状況があげられます。歯学部歯学科には各学年で数名の外国人留学生が在籍し、大学院博士課程には歯学系だけでも、100名近い外国人留学生が学んでいます。



## 短期研修にやってくる海外歯科学生との交流

歯科学生を海外の歯科大学に派遣し、研修する機会を与えることは、世界的な潮流になっています。本学歯学部・歯学系大学院と学術交流協定を締結している歯科大学から、毎年歯科学生が本学を訪問しています。平成20年度は台湾から13名、タイから8名、オーストラリアから4名、韓国から3名、英国から1名など計38名が訪問しました。訪問学生は研究プロジェクトに参加したり、歯学科の講義・実習を見学するほか、本学学生との交流にも大きな期待と関心を持っています。



## 海外との研究、教育、診療における人的交流

1983年10月に大韓民国・ソウル大学校歯科大学と学術交流協定を締結して以来、歯学部・歯学系大学院は2009年5月現在、海外の36歯科大学・歯学部と学術交流協定を締結しています。学術交流協定締結校からは積極的に留学生を受け入れる一方、複数の専門分野にまたがる共同研究プロジェクトによる研究者交流も盛んに行われています。外国人研究者の来訪が多く、英語による講義やセミナーも頻繁に開催されており、学生も自由に参加できます。



## 学生時代に、世界へ発信

2004年12月にタイ・チェンマイで開催された第1回大会に引き続き、2007年2月に北京で開催された第2回国際歯科学生研究発表会に、歯学科4年生4名が参加しました。本学に海外からの訪問研究者も多く、意見交換をする機会にも恵まれています。



## 研究体験実習時に外国や 学外研究機関への配属や国内外の学生発表会などへ 積極的に参加できるコースがあります。



平成20年 第21回日本歯科医学会総会  
学生ポスターセッション発表学生  
優秀賞受賞  
海老名 裕仁 さん（歯学科6年）



4年次の研究体験実習では座学だけでは学ぶことのできない、より実践的な臨床・研究を学生の希望により、学内および学外において指導教員の下、自主的に行なうことができます。私は全部床義歯補綴学分野で行われていた歩行に関する研究に興味を持ち、「健常有歯顎者の咬合状態変化が歩行運動に及ぼす影響の振動解析による評価」という研究発表を行いました。これに際しては前の大学で電子工学科を卒業し、電子計測分野で働いていた経験を十分に活かして、高い評価をいただくことができました。さらに翌年には、第21回日本歯科医学会総会のポスターセッション発表に参加させていただきました。日本全国の歯学部学生が研究成果を発表し、お互いに良い刺激となりました。そして、こちらでも優秀賞をいただくことができました。何事にも興味を持って、自分の持ち味とさまざまな機会を活かし、歯科界の将来を担う人材を目指していきましょう。



平成20年度 研究体験実習  
外国研究機関配属学生  
岡田 恵美 さん（歯学科5年）



平成19年度 研究体験実習  
学外研究機関配属学生  
松浦 孝典 さん（歯学科6年）

私は歯学科4年次のカリキュラムである臨床研究体験実習を利用して、アメリカのUCLAへ行きました。もともと臨床研究に興味があり、顎顔面補綴の分野でさかんに研究をされている先生に受け入れてもらうことができました。研究だけでなく、クリニックや技工室、セミナーなど、さまざまな場に参加させてもらうことができました。歯科医師や学生、さらに患者さんから教えてもらったこと全てが新しい発見でした。それと同時に、日本だからできる歯科医療の良さも再確認するきっかけになりました。また、世界中から UCLAへ勉強に訪れる歯科医の先生方と友達になれ、歯学部生として海外の先生方との交流ができたことをとても嬉しく思っています。このような機会が在学中に得られたことにとても感謝しています。





## 1 新入生 オリエンテーション

入学して1週間以内に、新入学生全員と全学部から参加した教員との1泊2日の校外オリエンテーションを行います。学科を超えて入学した皆さんが1日でも早く知人になれるように学科混合の少人数グループに分け、協力し合っていろいろな作業・発表を行います。



## 2 1年次 早期臨床体験実習

歯科医としての自覚を早期に持つため、3~4人のグループで歯学部附属病院の各診療科を見学し医療の実際を体感します。



## 6 5年次 学生一教員合宿研修

包括臨床実習直前に学生と歯学科教員が参加する1泊2日の校外研修です。学生と教員が混合で与えられたテーマについて協議し、全体発表を行います。また、時間を問わず卒業後の進路相談や学業相談などを行います。



## 7 5年次 患者対応接遇セミナー

包括臨床実習に進む直前で1日かけて行われる、専門外部講師を招いての患者接遇に関する講習会。コミュニケーションの取り方、敬語の使い方、礼儀作法、電話のかけ方、患者ー歯科医の相互ロールプレイ、など接遇についてのさまざまな内容を再確認する機会となります。

歯学科は入学時から良き歯科医師になるための様々なプログラムを行っています。



## 3 2年次 行動科学基礎

学生が医療人として活躍する前に、コミュニケーションと人間関係を行動の基盤としてとらえ、ひとりの人間として自分を知る、相手を知る、互いに関わり合うことを体験し、人間理解について考え、行動し、振り返る機会を持つことを目的としています。夏休みには学外の様々な施設の活動に参加します。写真は「こころみ学園」でのしいたけ栽培の共同作業体験風景です。



## 4 3年次 総合課題演習

問題発見・解決型思考能力の向上を目指して、3年次の1年間かけて週1回のペースで行われます。自学自習を目的に、社会と歯学をいかに関連付けて考えるかなどのプロセスを大事にするPBL テーネトリアルです。



## 5 4年次 研究体験実習

4年次に学生毎に学内外の異なる研究分野を選択し、6月中旬から7週間かけて自分にとって興味のある研究を行い、その成果を9月末に発表します。希望すれば8~9月の夏休みも続けることが可能です。



## 8 5-6年次 包括臨床実習

5年次後半から卒業まで1年以上の長い期間をかけて、歯学部附属病院であらかじめ了解を得た患者さんを担当し、診断から、治療までを行います。学生専用の診療室が設置されており、さまざまな専門診療科外来での各科実習も併せて行われています。



## 9 スキルスラボラトリ

本学にある全国共同利用施設のMDセンターと連携して、基本的歯科臨床技術修得のために学生が自由に予習・復習を行える本邦初の歯学系スキルスラボラトリが開設されています。

## ●講義・実習風景



池田 侑平 さん  
歯学部 歯学科 6年

東京医科歯科大学では5年次後半から約1年間、担当の患者さんを受け持ち、治療を行うことができる包括臨床実習があります。この実習を通じて毎日多くのことを患者さんと先生方から学んでいます。学年があがるにつれて自分が歯科医師になることに責任感と充実感を抱きながら日々生活を送るようになりました。

学生に学ぶ環境を提供し、熱心に指導してくださる先生方、そして共に向かう努力の中、忙しいですが楽しい毎日です。今は早く歯科医師となって医療の現場で働きたいと思っています。

OG's  
Voice



東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科  
歯髄生物学分野 助教  
和達 礼子 さん  
(歯学部 歯学科 平成4年度卒業)

やりたい仕事に就ける、人生でこれ以上の満足があるでしょうか。歯科医師の醍醐味は、患者さんとのコミュニケーションにあります。医科とは異なる歯科独特のふれあいは、私達に喜びをもたらし存在意義を感じさせてくれます。

本学の卒業生は、地域医療に貢献する以外にもさまざまなかたちで歯学を支えています。大学で研究や教育に携わる者、基礎研究の道へ進んだ者、官公庁で歯科行政に取り組む者等々、皆本学卒の誇りを持ち国内外で活躍しています。

歯科医師過剰と言われますが、良質な歯科医療のニーズはむしろ増加しています。本学の学生教育、とりわけ臨床実習の質の高さは日本一です。間違いなく6年後には圧倒的な実力差に気づくはずです。



## 1. 2.

## [学年混合選択セミナー]

2~5年次の学生と一緒に選択授業を受講。1テーマあたり週1回×5週で毎年2テーマ選択する。広い視野を持ち、柔軟な考え方ができる人材を育成することを狙いとし、歯科とは一見関係が薄いと思われる分野からもテーマを選び、社会で活躍している方を講師として招聘している。写真1は「化粧」、写真2はセコム(株)食事支援ロボット「マイスピーン」に関するセミナーの様子。

## 3. 4.

## [う蝕と歯髄疾患—審美的なクラウン修復実習]

5年次前期にクラウンによる審美的回復のための技術を学ぶ。写真はともにクラウン修復実習風景である。本学は臨床系の分野に教員数が多いので学生ひとりひとりに対する教育の質が高いことが特徴である。

## 5. 6.

## [全身と歯科治療]

5年次前期から後期にかけて、麻酔・全身管理法および、内科系の隣接医学を学ぶ。特に全身管理や救急医療に関する実習内容は非常に質が高い。写真はともにマネキンを用いた救急蘇生法の実習風景である。

## 7. 8.

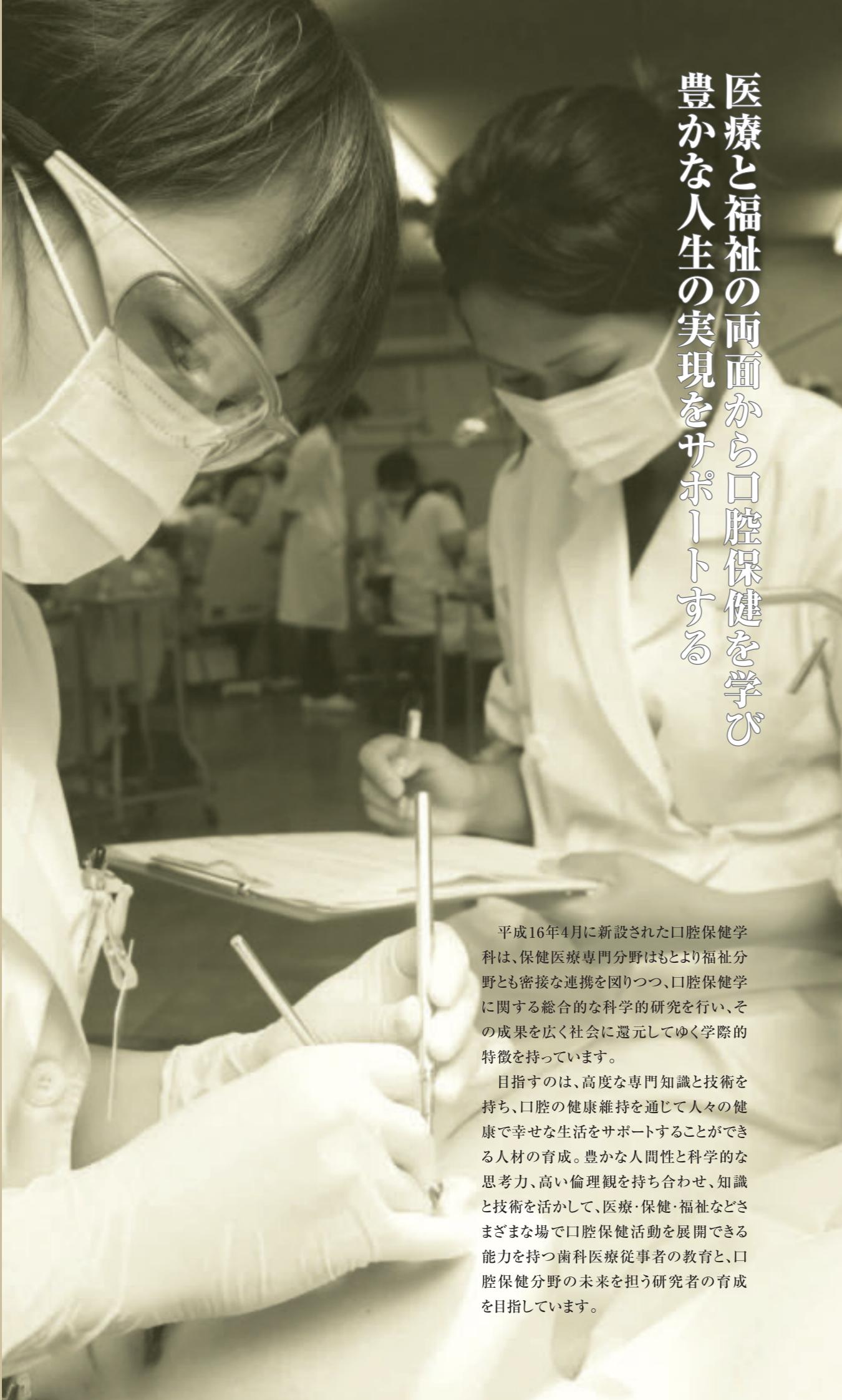
## [歯科医療基礎]

4年次前期に行われる臨床に密接した基礎的内容、すなわち薬理学、歯科放射線学、予防歯科学について学ぶ。写真はともに薬理学の実習風景である。

## 9.

## [顎口腔医療]

5年次前期から後期にかけて、口腔外科学および外科系の隣接医学を学ぶ。口腔外科学の基本的手技を学ぶ実習にかなりの時間を割いている。学生は多くの教員のきめ細かい指導を受けることができる。写真は皮膚の感触によく似たオペスキンを用いて、切開・縫合を行っている実習風景である。



#### 求める学生像

- (1) 口腔保健に深い関心をもち、人々の健康増進に貢献したい人。
- (2) 豊かな人間性と人々への思いやりのある人。
- (3) 協調性とコミュニケーション能力に優れる人。
- (4) 科学的探求心を持ち、自己啓発への意欲がある人。
- (5) 国際交流・国際貢献に意欲のある人。

#### 教育内容

歯学部口腔保健学科では、4年間で口腔保健学を中心に保健・医療・福祉の分野にわたる総合的な学習を行います。

1年次では、主に教養科目（人文・社会科学、自然科学、外国語など）を他学科の学生とともに学ぶほか、週1回の連携教育では早期臨床体験実習および専門教育の基礎的科目を履修します。

2年次から3年次前期にかけて、口腔保健衛生学の専門基礎分野科目（人体の構造と機能、疾病の成立過程と生体防御、口腔健康科学、薬理・薬剤学など）と専門分野科目（口腔疾患予防学、口腔健康統計学・情報処理論、口腔健康教育、食生活教育、医学一般、口腔と全身の健康評価、保健行動科学、臨床口腔保健衛生基礎学など）の講義や口腔疾患予防学、口腔健康教育、臨床口腔保健衛生基礎学の基礎実習を行います。児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉に関する科目、相談援助の理論と方法などの社会福祉関連科目の履修も2年次に開始します。

3年次後期からは、それまでに学んだ口腔保健学の基礎系・臨床系科目の知識と技術を活かし、歯学部附属病院での臨床実習やフィールドでの口腔健康教育実習などを実施。社会福祉士資格取得を希望する場合は、福祉施設での現場実習への準備を進め、春季休業期に集中的に現場実習を体験します。

4年次には、介護概論、歯科口腔介護、頸口腔機能訓練法など介護関連の科目を学ぶとともに、地域における口腔保健衛生臨地実習を実施し、実社会で活躍するために必要な問題解決能力を培います。また、興味に応じた卒業研究などを通して科学的思考と解決法を身につけます。社会福祉士資格取得を希望する場合は、さらに夏季休業時に社会福祉現場実習を体験し、実践力を育てます。

卒業時には、歯科衛生士の国家試験受験資格を取得できます。また、必要科目の選択履修により、社会福祉士の国家試験受験資格が得られます。

#### カリキュラム構成図



※図中には主要科目のみを示す。

授業科目
■連携教育科目
生物学基礎
基礎生命科学(生物学)
化学基礎
早期臨床体験実習
口腔保健衛生学原論
衛生学・公衆衛生学
栄養学
人体の構造と機能
社会保障論
コミュニケーション論
メディア情報学基礎
感染予防
■専門科目
口腔保健衛生学系・専門基礎分野
科学英語
人体の構造と機能
疾病の成立過程と生体防御
薬理・薬剤学
関係法規・衛生行政
社会福祉原論
社会保障論
口腔健康科学
口腔保健衛生学系・専門分野
口腔保健衛生学原論
臨床歯科医学
口腔疾患予防学
先端歯周病予防学
口腔疾患予防学実習
口腔健康統計学・情報処理論
口腔健康教育
口腔健康教育実習
食生活教育
医学一般
口腔と全身の健康評価
保健行動科学
ヘルスカウンセリング特論
臨床口腔保健衛生基礎学
臨床口腔保健衛生基礎学実習
介護概論
歯科口腔介護
頸口腔機能訓練法
口腔保健衛生臨床実習
地域口腔保健衛生臨地実習
選択臨床・臨地実習
口腔保健衛生学系・統合分野
口腔保健衛生基礎科学実習
特論(卒業研究)
社会福祉系・領域別分野
低所得者に対する支援と生活保護制度
障害者に対する支援と障害者自立支援制度
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
高齢者に対する支援と介護保険制度
地域福祉の理論と方法
保健医療サービスほか
社会福祉系・共通分野
社会調査の基礎
相談援助の基礎と専門職
相談援助の理論と方法
社会福祉相談援助演習
社会福祉相談援助実習指導
社会福祉相談援助実習

## ●講義・実習風景



吉田 沙織さん  
歯学部 口腔保健学科 3年

口腔保健学科は、歯科医療と福祉を一緒に学べる、今までにない学科です。「医療系の大学なのに、どうして福祉の勉強をするの?」と疑問に思われる方もいるでしょう。私自身もよくわからないまま入学しましたが、歯科医療と福祉と一緒に学ぶなかで、コミュニケーション能力など生涯役立つスキルを身につけられ、多面的に物事を捉えられるようになりました。

また、学科ではPBLやグループワークも多く取り入れており、学生が主体的に学んでいく機会が沢山あります。頑張っただけ、自分に力をつけることができる、積極的に取り組んでいます。この主体的に学ぶ姿勢は卒業後にもきっと活かされてくると思います。



遠藤 愛子さん  
歯学部 口腔保健学科 4年

口腔保健学科は、医療と福祉の専門的な知識や技術を一つの視点にとらわれず、幅広く学べる環境にあります。ディスカッションやグループワークなど学生同士の意見を交わす場が多く、互いに刺激を受けながら取り組んでいます。自分の想像外の発想を知り、本当に勉強になります。社会福祉科目は、始めは口腔領域との関連性があまり分からぬまま選択したのですが、授業が進むにつれ、その疑問も解消され、今では将来必ず役に立つ分野であると実感しています。「口腔の健康を維持・向上することを通じて人々の健康で幸せな生活をサポートする」。この言葉は、無限の可能性を秘めていると感じませんか?



1



2



3



4



5



6



7



8

## 1.

**[口腔疾患予防学実習]**  
2年次から3年次前期に行う、病院実習前のシミュレーション実習。患者さんにに関する情報の収集分析を基にケアプランを立てたり、歯石を除去する練習やフッ化物塗布実習を行うなどして、臨床実習で活用できる力を養う。

## 2.

**[口腔健康教育実習]**  
**[地域口腔保健衛生臨地実習]**  
2年次から3年次にかけて、小学校や保育所で行う指導実習。2~3人でチームを組み、歯や口の大切さやブラッシングの仕方などを伝え、実習先のクラス担任から授業を評価してもらうという内容だ。

## 3. 4. 5.

**[外科系歯科医学]**  
舌や歯ぐきのがん等、外科的な処置が必要な歯科医療に関する知識を得る臨床歯科医学の一分野で、3年次に開講される。写真は、血液の病気や先天異常疾患について学ぶ授業の様子。

## 6.

**[PBL<sup>※</sup> テュートリアル]**  
写真は2年生と3年次編入学生が一緒に行う口腔健康教育のPBL<sup>※</sup>。シナリオを読み、議論しながら、健康教育などに必要な問題発見・解決能力とコミュニケーション能力を身に付けてゆく。

※PBL…Problem-Based Learning

## 7.

**[留学生との交歓会]**  
国際交流センターで日本語研修を受けている留学生と2年生との交歓会。あやとり、カルタ、折り紙などを用意して楽しみながら、英語と日本語でのコミュニケーションを通じ異文化交流を深める。

## 8.

**[臨床実習]**  
口腔内の診査・歯科予防処置・口腔健康指導などを歯学部附属病院で行う実習。3年次後期から4年次にかけて行う。写真の学生専用診療室では、患者さんの歯石や歯垢の除去などにより、口腔内の状態を向上させ、健康を維持する方法と医療人としての姿勢を学ぶ。

医療人に必要な教養と人間力を身につけるために



東京医科歯科大学での学生生活の最初の入口、それが教養部です。教養部を設置している国立大学法人は本学のみ。教養部は、「大学は教養を身につける場である」という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と人間力を身につけるための教育を行っています。学部・学科の別なく全学生がともに学ぶことにより、多様な考えに触れ、専門の領域を越えて将来につながるかけがえのない友人を得ることができるもの、教養部ならではです。学科の特色や達成度に応じたクラス分けが行われる科目もあります。緑豊かな国府台地区で、医学部医学科と歯学部歯学科の学生は2年間、医学部保健衛生学科と歯学部口腔保健学科の学生は1年間、過ごします。

### 教養部の理念と教育目標

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知と技に加えて、さまざまな文化や多様な世界を理解できる教養と人間力が求められています。教養部では、そのためには、いわゆる一般教育とリベラル・アーツ教育を融合させた教養教育と専門教育を学ぶための基礎教育を両立させた教育を行うことだと考え、以下の4つを学生に獲得させる教育を目指しています。

- (1)市民社会の一員としての自覚とそこで生きるための能力
- (2)科学的に考え、理解し、学ぶ能力
- (3)コミュニケーションに必要な技術と能力
- (4)専門教育に必要な基礎学力や思考能力、技術

### 教育内容

教養部では、全学共通科目として配置された必修科目と選択科目を履修します。

この中には、グローバル化した市民社会の一員として生きていくために必要な、基本的な人文・社会・自然系の科目があります。これらの科目を通じて、医療人に必要な高度な倫理観、社会や自然を理解するためにどのように考え、理解し、継続的に学んでいく能力、その分野の共通の言葉でコミュニケーションを図る能力などを身につけていきます。外国語科目は、その言語を使ってコミュニケーションを図るために必要なばかりでなく、言語の背景となる社会や文化を理解するためにも重要です。言語を使うということは、文化や社会を理解することなのですから。自然科学の数学、物理学、化学、生物学は、自然の理解に必要であると同時に、専門教育の基礎学力としても重要です。講義と実習で知識に加えてそのための思考能力や技術をも学びます。さらにトータルフィットネスの講義と実技により、心体知を身につけます。

他者の身体に関与する医療者は、まず自らの身体を熟知し、それを管理できる能力が必要です。保健体育ではこのような能力を身につけるための時間も設けています。

物理や生物学などを高等学校で履修しなかった学生のために、入門コースを設けてキャッチアップができるように配慮しています。また、2年の前期の後に自然系科目の学力認定試験を実施して、達成度の低い学生には補強コースを受講させキャッチアップを図ります。達成度の高い学生には、研究室で実験などができるようなアドバンスドコースも用意されています。

このほか、学生の興味と関心に応じてさまざまな選択科目が用意されています。特にユニークなのは、東京藝術大学の先生を招き開講している芸術の授業です。また「医療と造形」では人間の頭部の塑像を制作する実技の授業で、身体の構造と機能を指先から学んでいきます。



授業科目
哲学
倫理学
心理学
宗教学
歴史学
民俗学
科学史
芸術
文学
法学
政治学
社会学
社会心理学
社会思想史
文化人類学
社会科学特論
日本事情(留学生のみ)
数学
物理学
化学
生物学
英語
ドイツ語
フランス語
日本語(留学生のみ)
物理学実験
化学実験
生物学実験
数学実習
科学基礎実験
情報科学
情報処理
保健体育学
フィットネスマネジメント
生物学基礎
生命科学特論
基礎生命科学
化学基礎
医の倫理
医療と造形
歯学史
統計学
歯学概説
歯学概説演習
科学英語
生命科学
行動科学基礎
基礎情報医歯学
早期臨床体験実習
歯学最新情報
医療人間学概論
バイオエシックス概説
医療人間学セミナー
先端医療技術論
口腔保健衛生学原論
衛生学・公衆衛生学
栄養学
人体の構造と機能
社会保障論
コミュニケーション論
メディア情報学基礎
感染予防



# 大学院 医歯学総合研究科

21世紀の医学及び歯学に求められている多くの課題に的確に対応するため、平成11年、大学院医学系研究科と歯学研究科とを有機的に改組・連携した医歯学総合研究科を創設しました。医学と歯学の教育研究が相互補完的となり、医学知識を持って活動する歯学研究者・歯科医師、歯学知識を持って活動する医学研究者・医師の育成が行われます。

医学、歯学並びに歯学のそれぞれの領域の高度な専門知識・技能を身につけ、同時に、それら知識・技能を横断的に駆使して全人的医療が実践できるアカデミックドクターの養成によって、より一層高度な医療を国民に提供する医療体制を整備することを目指します。

## 求める学生像

- (1) 医学・歯学分野に関する高い関心と研究への強い意欲を有する人
- (2) 幅広い視野を持ち、創造性とチャレンジ精神に富む人
- (3) 高い倫理性とコミュニケーション能力を備えた人

## 基本理念

21世紀における国民と国際社会のニーズに応え、医学・歯学両分野での世界的な教育研究の拠点となることを目指し、世界をリードする研究者、研究心旺盛な高度専門医療人（アカデミックドクター）すなわち医学・歯学両分野をカバーし、さらに様々な他専門分野との統合的研究を可能とする医療人の養成を行うことを基本理念とする。

## 教育目的

### 世界をリードする研究者の養成

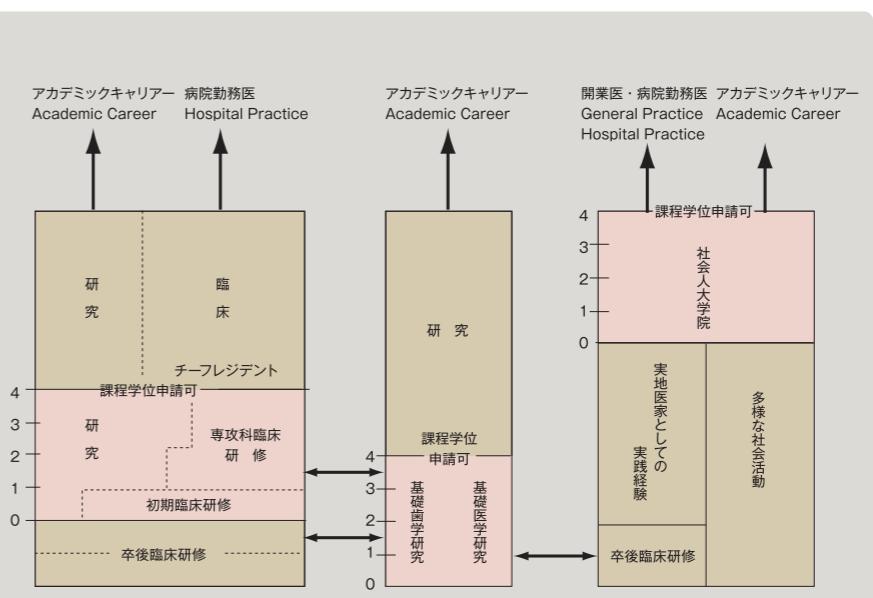
- (1) 基礎と臨床の融合を図る臨床指向型研究分野で世界をリードする研究者
- (2) 医歯学の連携を図る医歯学学際型研究分野で世界をリードする研究者

### アカデミックドクターの養成

- (1) 分化から統合化を目指す全人的診断治療の進歩に貢献する医療人
- (2) 医歯学領域を連携させる医歯学統合的医療を遂行できる医療人

## 教育内容

### 多様な大学院教育



## 教育研究分野

■ 全人の医療開発学系専攻
口腔機能再構築学系講座
口腔機能再建学講座
口腔病理学
細胞免疫制御学
分子生物学
口腔放射線腫瘍学
顎口咬合科学
口腔放射線医学
口腔機能発育学講座
小児歯学
咬合機能矯正学
摂食機能保存学講座
う蝕防護学
摂食機能保存学
歯齦生物学
先端材料評価学
有機材料学
機能材料学
摂食機能回復学講座
部分床義歯補綴学
インプラント・口腔再生医学
全部床義歯補綴学
頭頸面機能再建学系専攻
頭頸面機能再建学系講座
頭頸面剖学
認知神経生物学
分子発生学
分子細胞機能学
分子神経生物学
頭頸面機能修復学講座
頭頸面科学
頭頸面矯正学
頭頸面補綴学
障害者生物学
金属材料学
機械学
頭頸部再建学講座
臨床解剖学
形成外科学
頭頸部外科学
睡眠放射線医学
■ 生体支持組織学系専攻
生体硬組織再生医学講座
硬組織構造生物学
硬組織病理学
硬組織再生学
硬組織病態生物学
分子構造生物学
歯周病学
無機材料学
支持分子生物学講座
細胞生物学
病態代謝解析学
運動外科学
■ 環境社会歯学系専攻
国際健康開発学講座
健康推進医学
国際環境寄生虫病学
司法医学
国際保健医療協力学
健康推進歯学
スポーツ歯医学
法歯学
幹細胞医学
分子疫学
医療政策学講座
政策科学
医療経済学
歯学教育開発学
研究開発学
医療情報システム学
歯科医療政策学
歯学教育システム評価学
分子細胞遺伝学
シグナル伝達子制御学
創薬化学 I
創薬化学 II
遺伝子生物学
生命情報学
遺伝子応用医学
分子細胞遺伝学
遺伝子機能医学
先端分子治療学講座
分子生物学
血液内科学
分子内分泌内科学
シグナル伝達子制御学
創薬化学
遺伝子生物学
分子細胞生物学
血液内科学
分子細胞遺伝学
遺伝子応用医学
分子細胞生物学
遺伝子機能医学
先端分子治療学講座
肝胆脾・消化外科学
胸部器器置換学
包括病理学
統合呼吸器病学
血流制御内科学
血管・応用外科学
リハビリテーション医学
人工臓器工学

## 医歯学総合研究科(医学系)

# 全人的医療のアカデミックドクターを養成する 国内唯一の医歯学系総合大学院大学。

大学院医歯学総合研究科(医学系)は、最新の医学を研究し、難治性疾患の病態の解明や新しい医療技術の開発、また国際的視野に立って活躍できる人材の育成などのプロジェクトに取り組んでいます。

大学院には、6年間の医学部を卒業した後、4年間の研究活動を行う博士課程と、医学科・歯学科・獣医学科以外の4年制大学を卒業した学生を受け入れて医学に関する幅広い知識を体系的に教育する修士課程があります。さらに修士課程には、医療管理および医療政策の分野で指導的な活躍ができる人材を育成する医療管理政策学コース(MMA)もあります。国内の大学を卒業した学生だけでなく、海外からの留学生も数多く受け入れ、国際性豊かな教育、研究が活発に行われています。

### 多様な大学院コース

大学院医歯学総合研究科(医学系)では、多様な大学院コースを設置し、教育の機会を増やしています。



《臨床系大学院の開設》

#### 医歯学領域における先端的・学際的研究者の養成

医学と歯学の両方の知識を持った医歯学際型研究者の養成及び基礎と臨床を融合する臨床指向型研究者の養成。

#### 高度の医療技術を有するアカデミックドクターの養成

疾病中心から患者中心の全人的包括的医療の実践。



《医歯学国際大学院の拡充整備》

#### 地球規模での貢献

##### ・医歯学領域における国際的研究者の養成

英語による教育により、相互の人的(特に教員)交流と物的及び診療教育システムの提供協力による地球規模的な国際貢献。



《社会人大学院(昼夜開講制)の開設》

#### 開業医・勤務医への教育研究の場の提供

- ・研究心旺盛な医療人の養成
- ・異分野の社会人の参入

- ・リカレント教育(再教育)
- ・コンティニュイティング教育(持続教育)

自らの知識と技術の再確認ばかりでなく、最先端医療の知識と医療を学習修得することにより最先端医療の社会への普及。プライマリー医学、ターミナル医学等の多様な社会的要請に応える医療関係社会人の再教育。

### 各講座における教育・研究活動

#### 頭頸部再建学講座

頭・顔面・頸部の疾患を、顎顔面機構制御学、顎顔面機能修復学の各講座との密接な連携により病因・病態の解析から診断治療法と患者のQOLをも見据えた教育研究を行います。

#### 国際健康開発学講座

多様化する生活様式の中で健康を維持し増進させるための教育研究を行い、同時に、地球規模での人類の健康維持と増進に直接貢献する高度専門職業人の育成と、海外での健康維持活動を積極的に支援する人材の育成を行います。

#### 感染応答学講座

細菌、真菌、ウイルスなどの感染因子、さらに新しく生体環境内に出現する感染因子などに対する生体応答を分子生物学的手法、免疫学的手法、生化学的手法を用いて教育研究し、臨床医学の場に還元するとともに、新しい診断法と治療法の教育研究開発を行います。

#### システム神経医学講座

生体環境からのシグナルを受容するための感覚器、シグナルを伝達する神経系の受容システム、伝達システムの解明と、それらシステムの破綻による疾病的病因の解明及び診断法と治療法の教育研究開発を行います。



#### 支持分子制御学講座

歯・骨・筋肉・結合組織等の生体支持組織の基礎的研究を展開し、その成果に基づいて、これらの支持組織疾患の病因・病態、診断治療に関する教育研究を行います。

#### 医療政策学講座

医療管理学、医療経済学、医療情報システム学を統合して医療、歯科医療全般を巨視的に統御する医療政策学の教育研究を目的とするとともに、医歯統合化による新たな教育並びに研究システムの開発と医歯学に共通に必須の生命倫理学の教育研究を行います。



#### 先端外科治療学講座

悪性腫瘍、先天異常などの難治性疾患の次世代の治療法としての臓器置換、人工臓器、新しい光ファイバー及び核医学を駆使する先端外科的治療法の教育研究開発を行います。

ヒツジ(10~15Kg)を用いた人工心臓の慢性実験

#### 脳行動病態学講座

記憶と学習、認知と行動、個性と心、情動など脳機能を中心とした高次機能とそれの破綻による疾病的病因解明及び診断法と治療法を教育研究開発します。

#### 遺伝子・分子医学講座

悪性腫瘍、遺伝子性疾患などの難治性疾患における遺伝子、生体分子の疾患形成における役割を解析し遺伝子医学、生体分子医学の手法を駆使して疾患の診断法と治療法の教育研究開発を行います。

#### 修士課程における講義

医学科・歯学科・獣医学科以外の4年制大学を卒業した学生を受け入れて医学に関する幅広い知識を体系的に教育します。



#### 医療管理政策学コース(MMA)での講義

医療管理および医療政策の分野で指導的活躍ができる人材を育成するための教育です。



## 医歯学総合研究科(歯学系)

# 歯科医学における基礎・臨床融合型 ボーダレス教育研究拠点の形成

### プログラム構築の目的

東京医科歯科大学大学院歯学系の大学院生の教育研究のレベルアップを目指した新たなコースワークの構築。

- ◆臨床系分野学生が研究活動を通じて科学的根拠に基づいた医療を実践できる臨床歯科医の育成。
- ◆基礎系分野学生が臨床指向型研究分野で世界をリードする研究者の育成。
- ◆デンタルサイエンスに対する基礎・臨床分野における共通認識を深める。

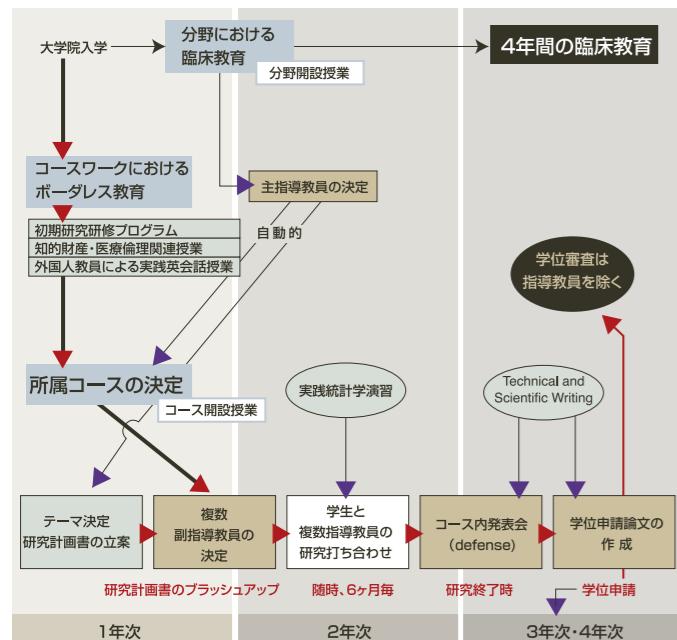


### プログラム内容

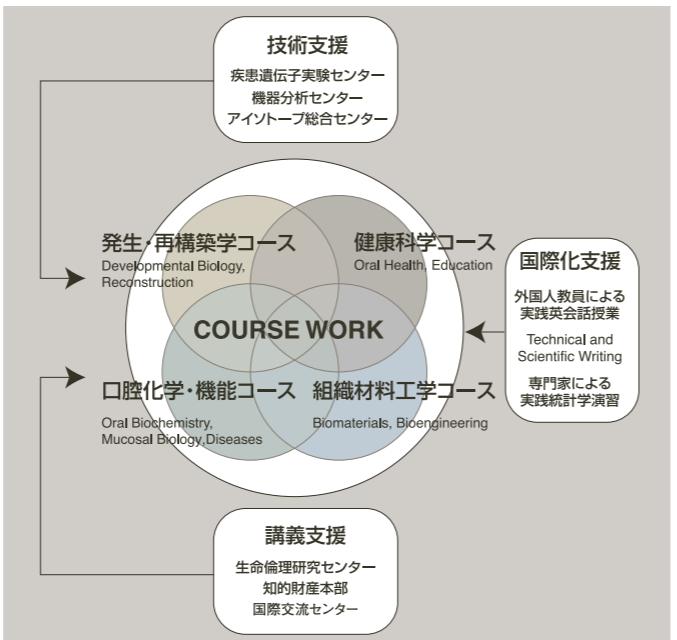
医歯学総合研究科(歯学系)に新たなコースワークを構築しました。歯科医学・医療について、生物学、材料学、社会学など、さまざまな角度から研究を進めるため、4つのコースを設定しました。各コースではコースリーダーがコースに所属する大学院生の研究進捗状況を把握し、ディスカッションやコース内での発表会などを通してより質の高い研究活動が行えるようにサポートします。また、大学院生1人に対して主指導教員1名、副指導教員2名の計3名による複数指導体制を採用しています。3名の指導教員には基礎分野の教員、臨床分野の教員を含むことにより、基礎・臨床融合型教育を実現しました。さらに、英会話、論文作成のための科学技術英語、データを正しく解釈するための統計、近年ますます重要となっている倫理、知的財産管理などの講義を通して国際的に通用する人材を育成します。



### 臨床分野所属学生の例



### コースワーク



### 発生・再構築学コース

近年現実的なものとなりつつある再生医療は、歯科領域において、歯、あごの骨、筋肉などで盛んに実用化への研究が行われています。現在、歯の再生は動物実験レベルでは可能となりつつありますし、また、歯科領域だけでなく医療全体が目標とする骨の再生は、すでに複数の方法が臨床に応用されています。しかしながら、再生医療にはES細胞やiPS細胞、組織幹細胞のいずれを使用すべきかなど、まだ研究課題は多く、より効率の良い治療方法の開発や標準化などが求められています。これらの再生医療を成功させるには、発生のメカニズムが多大なヒントを提供してくれます。発生は未分化な細胞が、いろいろな臓器の細胞として機能するようにならぶ過程であり、この分子メカニズムを明らかにすることは、より良い再生医療の開発につながっていきます。一方で、発生メカニズムの解明は先天異常と遺伝子の関わりの理解にもつながっていきます。発生・再生構築学コースではこれらを有機的に結びつけるような研究を行います。



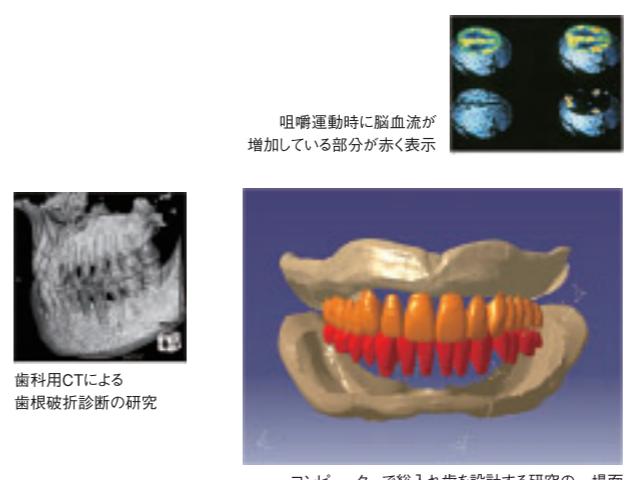
### 健康科学コース

大学院医歯学総合研究科では医学・歯学研究で世界をリードする研究者と、研究心旺盛な医療人の育成を目指していますが、医学・歯学研究で得られた成果を、人々の健康に結びつけるためには、専門の知識と技術が必要です。患者さん一人一人の健康づくりに寄与するだけでなく、ある集団、地域、国といったさまざまなレベルで、多くの人々の健康で幸せな生活づくりに貢献するためには、医療・保健・福祉・教育など、多角的な面からのアプローチが必要です。本コースでは医学・歯学研究と社会とのつながりを意識した学際的な研究を行います。



### 口腔化学・機能コース

口腔化学・機能コースは、口の中で起こる感染、炎症、免疫、がんに関する最新の研究、そして味覚、唾液、咀嚼、発声・発語、嚥下などの口腔機能とこれら機能の中枢制御、口腔顔面領域の感覚に関する最新の研究を専門とするコースです。たいへん広い範囲をカバーしていますので、研究方法としては細胞や動物、人間を用いたものばかりにコンピューターや特殊な機器を用いたものなどがあり、他の3つのコースの教員と協力関係を保ちながら行います。



### 組織材料工学コース

生体機能を代替したり制御するさまざまな人工組織材料(人工臓器)が現在開発されています。歯科領域では、むし歯や歯周病のために歯が欠損すると生体材料で修復を行えます。また、さらに歯を失った場合には、入れ歯やブリッジそして最近では人工歯根を用いたインプラントによる治療が行われます。その際、陶材(無機)、金属、コンポジットレジン(高分子材料)が適材適所で用いられています。これらの材料の機能を最大限に活用し、よりよいものを開発するために生体材料研究が重要です。材料の開発により歯科医療の高度化が支えられているといつても過言ではありません。一方で、近年、歯の構造や形成の生化学的、医学的理が進み、再生医療も視野に入れた歯科医学が進展しています。再生医療においても、細胞の足場となる材料設計が重要であるといわれています。組織材料工学コースでは、生体材料学と歯科医学の融合領域研究の基礎と実際にについて学び、先端歯科医療のための未来技術開発に向けて研究を行います。





# 大学院 保健衛生学研究科

医学系研究科の中に保健衛生学専攻として平成5年に博士(前期)課程が、平成7年に博士(後期)課程が設置され、平成12年に大学院保健衛生学研究科として医学系研究科から独立。平成13年には総合保健看護学専攻と生体検査科学専攻の2専攻を有する、看護学、検査学では我が国で初めての大学院重点化大学として部局化されました。

保健衛生学研究科は医学・医療の諸問題を学術的な幅広い視野で捉え、組織的に解決することを目的としています。看護学、検査学の各学術団体や行政とも連携し、生涯を通じて人々が高いQOLを維持するために、保健医療システムの開発構築の研究が期待されています。また海外の提携大学と共にで大学院生の教育や研究を行っています。

## アドミッション・ポリシー

21世紀の複雑化する社会において看護学及び検査学に求められている多くの課題に的確に対応するために、高度専門性をめざす総合保健看護学専攻と生体検査科学専攻の2専攻とし、独自の学問体系の確立と発展を図る。

看護学及び検査学に求められている多くの課題に的確に対応し、国際的学際的指導力を發揮するために、大学院の教育研究の高度化を図り、大学院における臨床指向型研究を主軸に置いた研究活動を積極的に進めることにより、国際社会のニーズに応える研究心旺盛で問題解決型思考力を有する高度専門職業人及び世界をリードする国際的研究者の養成を行うことを基本理念とする。

上記基本理念に基づき、下記の能力を有する人材を養成する。

### (1) 国際的リーダーとしての研究者

### (2) 臨床指向型研究をリードする高度専門職業人

1. 高度な専門分野の知識と技術を有し、かつ現場課題に対しては看護と検査の分野において総合的な判断と遂行力のある高度専門職業人としてのリーダー
2. 臨床現場に精通し、看護学特有なケア、検査学特有な臨床検査解析力及び精度の高い臨床検査法や生体支援システムの研究開発並びに国際的、学際的に臨床現場への的確な応用拡大を遂行できる高度専門職業人としてのリーダー

## 教育目的

### 総合保健看護学専攻

地域・病院・施設等の看護の現場において、子供から高齢者までの疾病予防、健康回復、リハビリテーション、ターミナル期までのさまざまな健康レベルの人々に対して、先端的看護技術の開発、集中的・継続的ケアによる緩和ケアや危機予防、安定的な健康と生活へのケア、個人・集団への健康教育、及び社会資源利用、チームケア、ケアマネジメント、看護管理、制度改革への提言などによる組織的問題解決によって、生活自立のレベルアップ、家族を含めたQOLの実現を目指す問題解決型思考を鍛える教育を行っています。

各教育研究分野の特性に応じて問題のアセスメント・計画・効果効率的実施・評価・理論構築への研究方法を体系化し、プロジェクト研究への参加、外国大学等研究機関への留学、国内外の学会での発表、学会誌への原著論文掲載等によって、研究プロセスの体験と研究成果発表を蓄積し、自立して研究できる能力を修得してもらいます。臨床指向型研究・国際的学際的研究のリーダー及び教育者としての資質の養成を目指して教育研究を行っています。

### 生体検査科学専攻

医学・医療が科学、工学分子生物学の急速な進歩に伴います高度化、先鋭化していくなかにあって検査学の分野もその例外ではありません。生体検査科学専攻では、分子・細胞レベルから器官・個体レベルにわたる生命情報の解析とともに、病因の探索と病態の解析を行い、それらを基盤に、より特異性と精度の高い臨床検査法や高次機能検査法の開発、在宅臨床検査システムやリハビリテーション用ツールをはじめとする生体支援システムの開発を目指した教育研究を行っています。学際的・国際的な臨床検査領域の実践・教育・研究の発展に貢献すべく高度な教育研究を行い、臨床現場に精通し、臨床検査に対応できる知識、専門性、解析能力を併せ持ち、臨床指向型研究・国際的学際的研究のリーダーおよび教育者としての資質の養成を目指して教育研究を行っています。

## 教育研究分野

### ■総合保健看護学専攻

地域・在宅ケア看護学講座  
地域保健看護学  
在宅ケア看護学  
リプロダクティブヘルス看護学  
精神保健看護学

看護機能・ケアマネジメント開発学講座  
生体・生活機能看護学  
小児・家族発達看護学  
先端侵襲緩和ケア看護学  
高齢者看護・ケアシステム開発学  
看護システムマネジメント学

健康教育開発学講座  
健康情報分析学  
健康教育学  
国際看護開発学

### ■生体検査科学専攻

生命情報解析開発学講座  
分子生命情報解析学  
形態・生体情報解析学  
生命機能情報解析学  
生体機能支援システム学  
疾患モデル生物情報解析学  
(教育研究協力分野)

分子・遺伝子応用検査学講座  
先端分析検査学  
生体防御検査学  
分子病態検査学  
先端血液検査学  
先端生体分子分析学  
(教育研究協力分野)

## 総合保健看護学専攻

# 日本の看護系大学院のパイオニアとして、 看護の実践・教育・研究を常にリードする役割を担う。

わが国における看護系大学院の牽引役として、さらに国際的な看護の実践・教育・研究の発展に貢献することを目標に、教育研究に取り組んでいます。

### 総合保健看護学専攻の特色

総合保健看護学専攻では、国立大学法人の看護系大学院として博士（前期）課程において、わが国最多の6分野の専門看護師教育課程を有していることが第一の特徴です。専門看護師は平成17年の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」でも示された、大学院で養成すべき高度専門職業人（スペシャリスト）に相当し、複雑化する医療現場で質の高い看護ケアを提供するための重要な人材と位置づけられています。これまでに多くの専門看護師教育課程履修者を輩出し、急性・重症患者看護、精神看護分野で専門看護師が誕生しています。

第二の特徴として、平成17年度の「魅力ある大学院教育」イニシアティブとして「看護系大学教員の博士号取得推進プログラム」、看護系大学の若手教員が在職したまま博士号を取得できるプログラムを推進し、平成20年度には「大学院教育改革支援プログラム」に採択されたプロジェクトを基盤に、国際的な看護学研究・教育者育成に取り組んでいます。その過程として平成20年度に総合保健看護学専攻内の組織改組を行い、新たな教育研究分野として「国際看護開発学分野」を設置し、さらに研究科内に「国際教育・研究センター」を設置するための準備を進めています。

また、平成12年には、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学とタンペレ大学、アメリカのコロラド大学、平成13年にイギリスのシェフィールド大学、平成14年にアメリカのワシントン大学と協定を結び、現在世界3ヶ国5大学等と大学間協定による教育・研究交流も推進しています。

総合保健看護学専攻の教育課程は、「地域・在宅ケア看護学」「看護機能・ケアマネジメント開発学」「健康教育開発学」の3つの大講座に、12の専門分野をもち、博士（前期）課程、博士（後期）課程の教育を連動して行っています。



外国人講師による看護英語論文の校閲

## 地域・在宅ケア看護学講座

### 地域保健看護学

行政機関における地域保健看護サービスに重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に関する教育を行っています。

### 在宅ケア看護学

在宅看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、在宅看護実践への有用性を検証する開発的な研究に関する教育を行っています。また、がん看護学の専門看護師育成のために、院内のがん看護にとどまらず、入院から在宅ケアまでの一連のがん看護（特に終末期・緩和ケアにおけるがん看護）を学ぶことが可能なカリキュラムを用意しています。

### リプロダクティブヘルス看護学

性と生殖に関する健康についての教育と研究を中心に行っています。妊娠・分娩・育児をはじめ、女性のライフサイクル全体を通して、性と生殖に関する種々の健康課題の現状を捉え、科学的な根拠に基づく看護を追究しています。

### 精神保健看護学

看護の視点から、人々の精神的な健康状態や発達課題を生活状況や生育歴に照らして評価する能力を身に付けると共に、さらに看護学に関連する保健医療福祉の諸領域で開発された自己理解とセルフコントロールの理論と技法などを基盤に、精神的な問題を抱えるあらゆる人に援助を提供するための技法やシステムを修得することを学習の目標としています。



精神保健看護学セミナー

## 看護機能・ケアマネジメント開発学講座

### 生体・生活機能看護学

広く生体機能や日常の生活機能を高める看護を目指し、看護技術を形成している科学的・経験的基盤を探求しようとする看護学です。大学院生は個々の研究テーマに取り組むばかりではなく、互いのテーマにも関心を持ち、また分野で取り組むプロジェクト研究にも参加しています。

### 小児・家族発達看護学

乳幼児期の母子相互作用や低出生体重児とその母親に対する育児支援介入研究や母子相互作用測定尺度NCASTの日本版開発を取り組んでいます。また平成18年4月からは、乳幼児精神保健の領域における専門の知識と技能を備えた、小児専門看護師を目指すカリキュラムの運用をはじめました。

### 先端侵襲緩和ケア看護学

クリティカルケア看護領域の研究への取り組みと、クリティカルケア看護専攻教育課程の教育を行っています。専門看護師実習は、実習提携病院ならびに本分野の修了生や専門看護師が勤務する施設の協力を得て、先駆的教育を取り組んでいます。



先端侵襲緩和ケア看護学セミナー

## 健康教育開発学講座

### 健康情報分析学

ゼミナル形式の講義を行い、一流の英文雑誌の抄読を通じて健康に関する科学的知見の構築を検証しています。院生に対しては、毎週、抄読会と研究テーマをもとにゼミを行っています。また月に1回、研究テーマをプレゼンテーションする機会を設け、活発な討論を行っています。

### 健康教育学

看護学・検査学に限らず、あらゆる医療に係わる領域からの学生に対し専門的職業人としての医療の在り方、理念を修得させ、自ら課題を解決できる人材を養成しています。特に産業の分野をフィールドとして選択し、個々に人の健康問題を検索し、解決できる能力を修得させています。



健康教育学セミナー

## 高齢者看護・ケアシステム開発学

高齢者とその家族の健康に影響を与える要因を理解し、健康生活レベルのアセスメント、看護援助の理論と方法や国際的な医療の動向などを学ぶとともに、ケアシステムの確立と発展への開発的研究を自立してできる能力を修得しています。

## 看護システムマネジメント学

より良い看護を提供するための体制づくりを目指し、幅広いテーマに横断的に取り組んでいます。研究課題は、社会における看護の状況を理解するための医療政策・医療経済に関するものから、看護の提供体制や看護師の働き方・キャリアデザインなど看護管理に関するものまで多岐にわたります。



専門看護師（修了生・右）の指導を受ける大学院生

## 国際看護開発学

大学院生の国際競争力強化のために新設された分野です。国際的視野に立った看護学の教育・研究・実践方法を開発する能力を習得することを目標として、大学院共通科目では国際看護研究方法論をすべて英語で教授します。保健医療福祉活動における国際的な看護課題について、英語によるプレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成を行い、看護学国際人としてのアカデミックスキルの習得を目指します。

独自の専門分野としては、病児の看護、思春期・青年期の慢性疾患患者（小児がん・慢性腎疾患等）の成人移行支援や、QOL、思春期のヘルスプロモーションに関する研究に取り組んでいます。



協定校での研修  
(フィンランドのセイナヨキ応用科学大学)



フィンランドのセイナヨキ応用科学大学教員のMis.Aila VallejoとMis.Helli Kitinojaの講義

## ■ 生体検査科学専攻

# 生体検査科学のスペシャリストとして、日本の教育・研究をリードし、世界の臨床検査学の発展に寄与する。

わが国の生体検査科学系大学院の牽引役として、学際的・国際的な臨床検査領域の実践・教育・研究の発展に貢献すべく、全スタッフが共同して取り組んでいます。

### 生体検査科学専攻の特色

医学・医療が急速に進歩し、ますます高度化・専門化・尖鋭化していく中で、生体検査科学も例外ではありません。本専攻は大学院重点化大学として、全国の国立大学に先駆けて、平成5年に博士（前期）課程を、平成7年には博士（後期）課程を設置しました。分子・細胞レベルから器官・個体レベルまでの生命情報の解析と病因・病態の解析、感受度・特異度の高い臨床検査法・機能解析法の開発、病院・診療所での臨床検査システムの開発、リハビリテーション・在宅での生体支援システムの開発等を目指した教育・研究を行います。そのためには、高度な専門的知識とともに、臨床現場に精通し、幅広い教養と学際的・国際的視野をもち、自ら問題を提起して解決していく人材の養成を目指して教育研究を行っています。

生体検査科学専攻は、生命情報解析開発学と分子・遺伝子応用検査学の2つの大講座に9つの専門分野をもち、博士（前期）課程と博士（後期）課程の教育を連動して行っています。博士（前期）課程では、学士課程で修得した専門的知識・技術を基盤に、生体検査科学分野における科学的思考力と研究能力、倫理観と実践力を養い、各専門分野のスペシャリストとして学識を深め、指導者・研究者・教育者としての能力を修得します。それぞれの専門分野は日進月歩で新しい知識や技術を蓄積しつつあり、それらを理解し応用できる能力を身につけ、学際的・国際的に活躍できる基盤を修得します。

博士（後期）課程では、高度に専門的な業務に従事するのに必要な高い学識・技術・応用力を身につけ、生体検査科学分野における研究者として自立して研究活動を行います。自ら研究テーマを設定し、研究計画の立案・実施・解析・考察を行い、研究成果を発表し、国際誌へ報告します。また、専門分野に関する学識だけでなく、基礎・臨床・社会医学、医工学や分子生物学などの関連領域の研究者と共同研究ができる能力を養います。すなわち、独立した研究者として認められる能力、学際的・国際的な研究を遂行するリーダーとしての能力を修得し、倫理性・科学性にすぐれた研究者・教育者・管理者としての資質を有する高度専門職業人及び研究者を目指します。



先端分析検査学 実習風景

### 博士課程

#### 博士（前期）課程

各自の所属分野において研究方法を学び、研究テーマを定めて文献検索・研究計画を検討します。そして調査・実験・事例分析などによりデータを収集し、解析・検討を加えて学会に発表し、論文としてまとめる能力を修得します。また同時に所属分野以外の科目を選択し、さらに医療情報学や病因・病態解析学などの総合保健看護学専攻との共通科目を選択し、幅広い知識と技術を身につけます。

#### 博士（後期）課程

前期課程で修得した科学的なものの見方・考え方・研究手法などの基礎知識・技術を生かして自らテーマを設定し、自立した研究活動を行います。高度に専門的な業務に従事するのに必要な高い学識・技術・応用力を身につけ、学際的・国際的な研究を行うリーダーとしての能力を養い、高い倫理観をもった研究者・教育者・管理者としての資質を有する高度専門職業人を目指します。

## 生命情報解析開発学講座

### 形態・生体情報解析学

人体の構造と機能について理解し、形態・機能検査の基礎と応用技術を学ぶ学問です。人体各器官系の構造と機能、比較形態学、動物実験等に関する実験方法と解析法、文献検索法、プレゼンテーション方法等を学びます。

### 生命機能情報解析学

患者さんから各種生体現象を測定・解析し、生体の働きと疾患の病因・病態を解明する学問です。神経生理機能検査、循環機能検査、呼吸機能検査、画像診断検査等を中心に、各種生体機能解析法の基礎と応用技術を研究します。

### 生体機能支援システム学

生体計測に必要な物理・化学的原理を基礎に、適正な生体計測や新たな計測法を開発する学問です。無拘束・無侵襲計測法の重要性を学び、新しい生体計測法・計測技術を模索する研究能力を養います。

## 分子・遺伝子応用検査学講座

### 先端分析検査学

患者さんから採取した血液、尿、胸水、腹水、脳脊髄液などに含まれる化学成分の変動をとらえ、疾病の診断と治療に結びつける学問です。目的に応じた分析法を選択し、種々の分析技術の理論と応用技術を研究します。

### 先端血液検査学

血液学的・分子生物学的手法を用いて疾患の早期診断・治療・予防・病態解析を研究する学問です。血液検査、分子・遺伝子検査の技術と応用力を身につけます。

### 先端生体分子分析学

生体検査科学専攻の教育研究協力分野で、分析機器を用いた有機分析化学を主体に、新たな分析方法を開発する学問です。有機分析化学の基礎を学び、生命を形作る有機化合物の分子の化学構造を電磁気分光学的手法で研究します。

### 生体防御検査学

感染症の原因および病態、病原微生物の検査および診断への応用、さらに免疫学の基礎と応用を追求する学問です。微生物学と免疫学の理論的基礎、実験法、応用技術を身につけます。

### 分子病態検査学

疾病の本態を解明するため、肉眼的・組織学的・細胞学的・分子病理学的に病理像を追求する学問です。病理学的検査法の理論や技術を身につけ、病因・病態の解明と診断への寄与を目指します。



共通科目セミナー風景



生命機能情報解析学 実習風景



分子病態検査学 実習風景



# 大学院 生命情報科学教育部

20世紀末から21世紀初頭にかけて、種々の生物種の全ゲノム配列が解読されました。特にヒト・ゲノム情報から引き下げるに貢献することが期待されており、21世紀はまさに生命科学の世紀となろうとしています。このような、学問領域、社会や産業構造が変化するなかで、複雑な疾患研究領域と先端的な生命科学との融合的学際分野での実践的な研究を推進すると共に、生命情報の解析に基づく技術革新を実現するためのマネジメント能力を身につけた実践的問題解決能力を有する人材の育成を行います。

生活の質的向上の実現を目指すとともに、社会負担コストを引き下げるに貢献することが期待されており、21世紀はまさに生命科学の世紀となろうとしています。このような、学問領域、社会や産業構造が変化するなかで、複雑な疾患研究領域と先端的な生命科学との融合的学際分野での実践的な研究を推進すると共に、生命情報の解析に基づく技術革新を実現するためのマネジメント能力を身につけた実践的問題解決能力を有する人材の育成を行います。

## 求める学生像

- (1) バックグランドとなる領域に深い学識と優れた研究遂行能力を持つ。
- (2) 生命科学と疾患研究に深い関心を有する。
- (3) 融合領域を開拓する幅広い視野を持ち、創造性と自立性に富んでいる。
- (4) 協調性に富み自己表現能力に優れている。

## アドミッション・ポリシー

進展の著しい生命情報の理解を基礎として、分野融合的な先端的生命科学分野の研究・開発を担う人材を育てるとともに、生命情報解析に基づくマネジメント能力を身に着け実践的問題解決能力を有する人材の養成を目的としています。

## 教育目標

- (1) 多様なバックグランドを持った学生を集め、学際的生命科学領域の発展を担える人材の養成。
- (2) バイオサイエンスの知識に基づいて疾患・健康に関する諸課題の解決に実践的に関与できる人材の養成。
- (3) 国際的に多方面の分野で必要とされる人材の養成。

## 教育内容

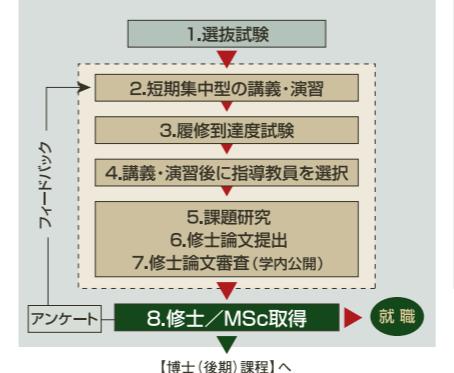
### 短期集中の講義・演習

生命科学、情報科学の基礎から最先端までについて、入学後3ヶ月間の短期集中で講義・演習を受けた後、疾患研究領域と先端的な生命科学との融合学際分野での実践的研究を行います。これらの講義と演習は、疾患生命科学研究を行う上での基礎的な知識や技能を習得すると同時に、先端的な研究を紹介し、研究テーマや研究室の選択に役立てるように構成しています。講義・演習の内容は、学部において生命科学を専攻しなかった専門的な知識や技術がない他分野出身の学生にも対応できるように配慮しています。

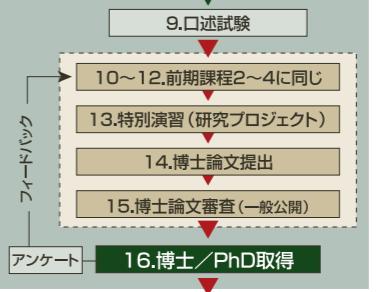
### 生物学から薬学、化学、情報科学まで多様な人材を受け入れ

生命情報科学は複数の学問領域を包含する新しい学問領域です。従って、さまざまなバックグラウンドを有する学生・社会人を歓迎しています。大学での専攻分野が医学、生物学、生命科学の学生だけでなく、化学、薬学、情報、システム工学まで多様な人材を受け入れています。特定の学部卒業者が入試において不利にならないように、筆記試験には情報科学と化学の分野からも出題するとともに、面接点を重視した総合選抜を行っています。

### 【博士(前期)課程】



### 【博士(後期)課程】



## 教育研究分野

■博士(前期・後期)課程
各専攻共通科目
バイオ産学連携特論
細胞・組織形態解析演習
ゲノム及び遺伝子発現解析演習
プロテオーム解析演習
発生工学演習
生命情報科学論文作成演習
発生・生殖科学特論
バイオインテリジェンス科学特論
ケミカルバイオロジー特論
ケミカルバイオロジー演習
細胞増殖制御学特論
オミックス創薬特論
システム生物学特論
遺伝統計学特論
最先端疾患生物学特論Ⅰ・Ⅱ
総合バイオインフォマティクス特論
応用ケミカルバイオロジー特論
総合ランクスレーショナルリサーチ特論
■博士(後期)課程
各専攻共通科目
疾患生命科学概論
英語ディベート演習
生命論理学・生命科学史特論
国際産学リankeージ演習Ⅰ
総合バイオインフォマティクス演習
応用ケミカルバイオロジー演習
総合ランクスレーショナルリサーチ演習
バイオ情報学
ゲノム科学特論
バイオ情報学文献研究
分子構造学特論
プロテオーム情報学特論
生命システムモデリング特論
生命システム情報学・
生命情報管理学特論
コンピュータープログラミング演習
オミックス情報科学特論
システム情報生物学特論
課題研究
高次生命科学
高次生命科学文献研究
ゲノム化学・機能分子特論
細胞組織制御学特論
高次生体機能制御学特論(1)
神経科学
細胞シグナル制御学特論
再生医療／細胞治療実験演習
高次生体機能制御学特論(2)
免疫学・生体異物情報学特論
バイオインスパイアードシステム特論
課題研究
■博士(後期)課程
各専攻共通科目
生命情報科学国際データ
フレゼリテーション演習
国際産学リankeージ演習Ⅱ
バイオ情報学
ゲノム情報科学特別演習
分子構造情報学特別演習
生命情報解析特別演習
バイオ情報学特別演習(研究プロジェクト)
高次生命科学
分子細胞工学特別演習
高次生体制御特別演習
生体システム工学特別演習
高次生命科学特別演習(研究プロジェクト)

# 最先端の研究機関から多数の教員が参加する 欧米型「PhDプログラム」を実現。

本学の教員だけでなく、正式な連携大学院協定を交わした理化学研究所、産業技術工学総合研究所、国立成育医療センター、国立国際医療センター、国立精神神経センター、国立がんセンター、癌研究所、東京都臨床医学総合研究所、東京工業大学の先端的研究教育機関、NTTデータ、アステラス製薬の企業の研究所の教員が、研究指導を行います。

## 欧米型の大学院組織を構築

生命情報科学教育部／疾患生命科学研究部は、平成15年4月に設置された我が国で唯一の疾患のポストゲノム研究とそれに関わる研究者、産業人を養成するための大学院組織です。生命科学の基礎だけでなく、疾患の克服を目指した実践的な研究を行っています。本大学院は、欧米の大学院と同様に、教育と研究の責任分担を明確にするために、生命情報科学教育部と疾患生命科学研究部から構成され、それぞれに担当部長を配置しています。生命情報科学教育部は、大学院生の教育のための組織で、研究組織と有機的に連携しつつ教育部長がその運営にあたるとともに、学内外の多数の優秀な研究者が大学院教育に参画しています。大学院生は生命情報科学教育部に入学し、疾患生命科学研究部や連携大学院所属の教員から教育並びに研究指導を受けます。



ケミカルバイオロジー演習

## 入学後に研究室を選べます

疾患生命科学に対する専門知識が十分でなく、受験時や入学時点で研究分野や研究室を選択できない場合にも対応できるように、研究室選択は、講義や演習が終了する7月に行います。講義や演習を通して、希望研究分野や研究指導者を選択してから、所属研究室を選択するシステムです。連携大学院も含めれば、非常に幅広い研究分野をカバーしています。



大学院講義 オミックス情報科学特論

## 学際生命科学東京コンソーシアム

本大学院は、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学と共同でコンソーシアムを運営し、幅広い生命科学の推進と教育の充実に取り組んでいます。各大学はそれぞれ相互に交流協定を結び単位互換を実施していますので、東京医科歯科大学の大学院に所属しながら、北里大学における薬学の講義や、お茶の水女子大学における情報科学の講義を履修することができます。4大学が共同でインターンシップや連携企業への就職支援を実施しますので、幅広い企業へのリンクを就職に活用できます。

## コアファシリティ

最先端の生命科学研究には、高度な分析機器が不可欠です。質量分析装置、共焦点顕微鏡、DNAシークエンサー、NMR、X線結晶構造解析装置などの最高性能の分析機器を揃えてコアファシリティとして共有化して、大学院生が自由に研究に用いることができる環境を整備しています。



コアファシリティ 質量解析装置(LC-MSMS)

## 魅力ある大学院教育イニシアティブ・生命情報科学国際教育プログラム

本教育プログラムでは、欧米先進諸国を含む海外から才能ある人材を我が国に吸引できるような大学院教育の実現を目指します。科学における国際言語である英語による大学院教育を実施し、日本語を解さない学生も支障なくトップレベルの大学院教育を受け日本の大学院でPhDを取得できる体制を整えました。国費留学生の優先枠2名を獲得し、理化学研究所と共同でTMD-RIKEN International Schoolを設置して、留学生が当該研究所の経済的支援を受けながら本大学院でPhDを取得できる制度を整備しました。平成19年度より留学生の受け入れを開始し、現在総勢13名の外国人学生が在籍して共に学んでいます。全ての講義を英語で実施する独自のシラバスを開発し、大学院教育国際化のモデル大学院として評価されています。

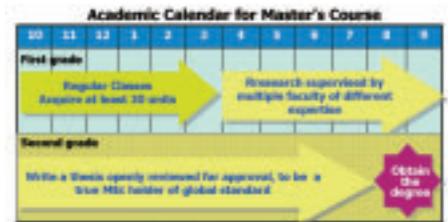
### 在学生からのメッセージ

#### 博士(後期)課程2年 T.D. Chinchika P. Gunasekaraさん

Life as a student at TMDU is a very stimulating academic and research experience. Biomedical science PhD program provides me a great opportunity to learn and engage in research under highly dedicated academic staff. The constant support offered by the International students' center, staff and colleagues in dealing with day-to-day life has made my stay pleasant and stress free. Of course it is also a wonderful opportunity for me to enjoy Japan through her beautiful seasons and experience Japanese culture!

#### 博士(前期)課程1年 Wanping Awさん

I have been a student of TMDU's Graduate School of Biomedical Science since October 2008. Campus life has been extremely enjoyable so far. Apart from tremendous support from academic professors and administrative personnel, fellow laboratory members were extremely friendly and helpful, which made it easy for me to get acquainted to the environment. I have also been able to interact with many individuals from various countries, making my experience at TMDU a rewarding one.



## 大学院教育改革支援プログラム国際産学リンクエージングプログラム(平成19~21年度)

国際企業へのインターン・シップを通じて、国際社会のリアルタイムの動向と求める人材像を、国際企業や研究所の現場に滞在させて体験的に学習します。また、国際産業界と連携して国際産学スクールを開催し、ビジネス戦略について学び国際産業界と会話する力を鍛えるよう指導します。このように本プログラムでは、国際産業界と大学院のリンクを重点的に整備して、本大学院の卒業生の国際社会貢献を支援します。

### 2007年度国際産学リンクエージングプログラム海外インターン・シップ参加者

- 博士(後期)課程2年 中川 草 (訪問先:Stanford University, UCSC, NIH NCBI, NCI, Union League of Philadelphia, State College)
- 博士(後期)課程3年 柴田 潤子 (訪問先:Merck & Co., Inc., Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, National Institutes of Health)
- 博士(後期)課程2年 成尾 佳美 (訪問先:University of Glasgow, Simcyp Inc., Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Pharmasse Inc., Gilead Inc.)



Union League of Philadelphia

### 参加者の声「今後のキャリア形成について」

本プログラムに参加することで、将来の進路を考えるまでの視野は確実に広がった。将来、私は国際的にも活躍できるような研究者になりたいと考えており、留学という選択肢も頭の中にはあった。しかし、そのイメージは漠然としていて、どこか遠くの国での話のようだった。今回、本プログラムに参加し、自分が海外で研究する姿を以前よりはっきりとイメージできるようになった。そして、海外で研究したいという気持ちを以前より増してもつことができた。

## 大学教育の国際化加速プログラム・異分野融合型疾患生命科学教育の国際連携(平成20~22年度)

欧米アジアの大学・研究機関と連携してダブルディグリー教育プログラムを開発し、本学の大学院生が本学に在籍しながら海外の先進的大学のPhD教育プログラムを享受できる制度の整備を進めています。我々の大学院は欧州やアジアの大学と幅広く協定を結んでいます。現在協定を締結している大学は10大学[ハイデルベルク大学(ドイツ)、フライブルク大学(ドイツ)、グラスゴー大学(英国)、ダンディー大学(英国)、リヨン高等師範学校(フランス)、中国医科大学(中国)、北京協和医科大学(中国)、復旦大学(中国)、Shanghai Center for BioinformaticsTechnology(中国)、ハノイ医科大学(ベトナム)]ですが、このプログラムの実施期間に更に多くの大学と協定を結ぶ予定です。我々の大学院ではインターネットを介してこれらの海外連携大学の講義を遠隔履修できる環境を整備しています。



協定校 グラスゴー大学

キャンパス概要

KOUNODAI CAMPUS

## 国府台地区

すべての学生にとって最初の学舎となる教養部がおかれている国府台地区。東京都に隣接する千葉県市川市にあり、湯島・駿河台地区にも約40分でアクセスできます。

医学部	医学科 ..... 1・2年次 保健衛生学科 ..... 1年次
歯学部	歯学科 ..... 1・2年次 口腔保健学科 ..... 1年次

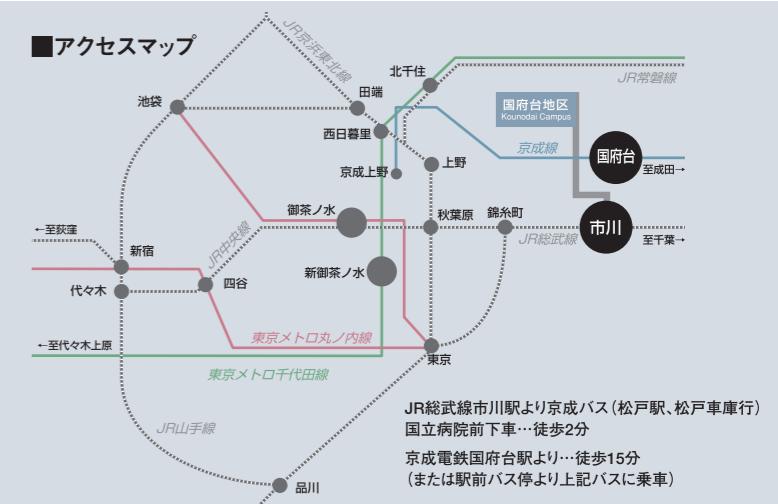
※本学では、教養部(国府台地区)にて「全学共通科目」を履修してから、湯島地区において「専門科目」を履修します。



■法皇塚古墳



- 1 管理研究棟**  
Administration Office and Study Room
  - 2 シャン・ドゥ・コースリー**  
Champ de Causerie
  - 3 図書館**  
Library
  - 4 体育館**  
Sports Gymnasium
  - 5 学生寄宿舎**  
Student Dormitory
  - 6 武道館**  
Budokan (Martial Arts Gymnasium)
  - 7 サークル室**  
Club House
  - 8 合宿研修所**  
Training Center
  - 9 弓道場**  
Japanese Archery Gymnasium
  - 10 國際交流会館**  
International House
  - 11 國際学生宿舎**  
International Student House
  - 12 ヒポクラテスホール (校舎棟)**  
Hippocrates Hall



JR総武線市川駅より京成バス(松戸駅、松戸車庫行)  
国立病院前下車…徒歩2分  
京成電鉄国府台駅より…徒歩15分  
(または駅前バス停より上記バスに乗車)

沿革と今

緑豊かなキャンパスで全学生がともに学び、サークル活動を楽しむ。

国府台地区は、江戸川を挟んで東京に隣接する千葉県市川市の下総台地の西端にあたる高台の上におかれています。国府台の地名は、大化の改新によってできた新政府により、この高台に下総の国府がおかれたことに由来します。この地域が昔から交通の要所であったためです。室町時代には現在の里見公園北側に国府台城が作られ、江戸時代になると、国府台一帯は、曹洞宗の寺院の総支配権をもつ總寧寺の広大な寺域となりました。明治になって国立大学の候補地になりましたが計画は立ち消えとなり、その後、軍の施設がおかれるようになります。戦後、その跡地が文教地区となってよみがえり、現在の姿になりました。

教養部の前身は旧制大学の予科として設置されましたが、その後、絶えず曲折を経て、教養部として大学の分院のあったこの国府台に設置されます。以来、国府台地区は東京医科歯科大学の教養教育の拠点となるとともに、体育館、プール、弓道場、武道館、グラウンドがおかげ、学生の課外活動の中心となっています。

約6万m<sup>2</sup>の緑豊かなキャンパスには、法皇塚古墳があります。大学キャンパス内に古墳のある大学も珍しいのではないかでしょうか。これもこの地域が歴史的に重要な地域だったことを示しています。また、豊かな感性を身につけてもらうために、キャンパス内には何点かの彫刻や染めの作品を展示しています。東京藝術大学の卒業制作作品を借り上げたものです。このような環境で、学生は大いに学び、スポーツし、交流を深め、充実した毎日を送り、自らの将来を決めていくのです。



七



### ■「記憶の」



「トオクトオク」



二曲器



■「トシノカラズ

## キャンパス概要

YUSHIMA AND SURUGADAI CAMPUS

# 湯島地区・駿河台地区

東京都心の歴史ある地域に広がる湯島・駿河台地区。研究棟や附属病院が立ち並ぶキャンパスで、高度な知識と技術を持つ医療人を養成するための専門教育が行われます。



医学部	医学科……………3~6年次 保健衛生学科 ……2~4年次
歯学部	歯学科……………3~6年次 口腔保健学科 ……2~4年次

※本学では、教養部（国府台地区）にて「全学共通科目」を履修してから、湯島地区において「専門科目」を履修します。

## 生体材料工学研究所

Institute of Biomaterials and Bioengineering

### 近未来の医療を支える科学技術の世界的研究拠点

歯科材料を含む生体材料学と医療機器の研究に特化した附置研究所として、生体材料工学研究所は半世紀以上にわたり医歯工連携の歴史を継ってきました。

現在は、機能分子・素材・システムの三大部門に拡大し、バイオマテリアル・バイオエンジニアリングに関する基礎理論や新概念の構築、最先端素材の創出を図るとともに、創薬から医用デバイスまでを包含する先導的研究に取り組んでいます。

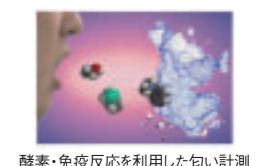
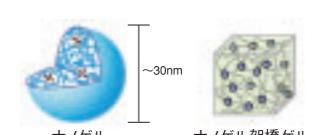
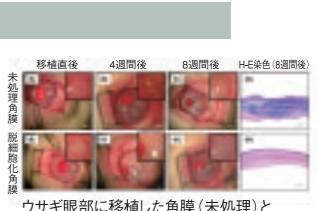
### 研究プロジェクト

- (1) 疾病に関する分子情報の集積や機能分子創製による、先端医療ナノバイオサイエンス
- (2) バイオインスピアード・バイオマテリアルの創製と応用研究
- (3) バイオシステムエンジニアリングの先端医療への応用研究を推進しています。

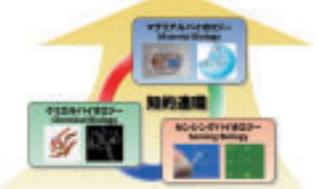
### 最近の主な研究成果

生体材料工学研究所では先端医療に関連する幅広い研究が行われており、毎年数多くの研究成果が発表されています。これらの研究成果から、最先端の医薬品や医療用材料などが生まれ出されます。

- ・超高压処理技術による安全な再生医療用移植材料が開発され、これまで不可能と言われていた角膜についても実験レベルで優れた成果が得られており、臨床応用への準備を進めています。
- ・ナノサイズの自己組織化ゲル微粒子（ナノゲル）を開発しました。ナノ微粒子とゲルの特性を合わせ持つナノゲルを駆使して、癌免疫療法に適したナノゲルキャリアーや再生医療用マテリアルの開発を行っています。
- ・酵素や抗体を匂い分子の認識素子として用いることで、ガス中に含まれる特定の成分だけを計測することが可能な各種匂いセンサを開発しました。口臭の客観的評価や疾病診断、生活環境中のVOCの検知などへの利用が期待されています。



### 学際的・学融合的新分野の創生



### 部局間連携による研究・人材育成への取り組み

#### 文部科学省 人材養成プログラム

「医歯工連携による人間環境医療工学の構築と人材育成」

#### 文部科学省 特別教育研究費

「センシングバイオロジーにおける基盤技術の戦略的推進事業」「ケミカルバイオロジー推進基盤創出事業」

部局や大学の枠組みを越えた連携による人材育成や研究プロジェクトにも取り組んでいます。

## 難治疾患研究所

Medical Research Institute

### 治療困難な疾患の研究を推進するわが国有数の研究所

世界でも類のない「難治疾患の研究を課題とした研究所」として、  
先端分子医学研究部門・難治病態研究部門、およびゲノム応用医学研究部門の3つの大部門に  
21分野が所属し、2客員部門とともに難治疾患の病態分子機構成立の解明の基盤となる  
基礎生命医科学から先端的疾患医学にいたる活発な研究を展開しています。

#### わが国をリードする研究活動

本研究所では、急速な高齢化の進むわが国においてますます重要性の増しつつある悪性腫瘍、循環器疾患、運動器疾患、免疫疾患、代謝疾患、神経疾患、遺伝疾患のそれぞれの研究領域を牽引する研究活動が行われ、世界的に主要な学術雑誌に毎年多くの論文が掲載されるなど、難治疾患に対する画期的な治療の基盤となる多くの成果を着実に挙げ、わが国における、この領域の研究をリードする活動を展開しています。



#### 充実した研究支援施設

本研究所の大学院教育支援施設は、現在、バイオリソース支援室、ゲノム解析室、細胞プロトオーム解析室、遺伝子組換えマウス実験室、形態機能解析室、生命情報室、X線解析装置による構造解析室、ケミカルバイオロジースクリーニングセンターにより構成され、いずれも先端研究を支援するのみならず広く本学の大学院研究教育を支援し、機器や設備の有効利用と研究費の有効利用の上で重要な役割を担っています。



#### 大学院生の教育および若手研究者の育成

本研究所は本学大学院生命情報科学教育部・疾患生命科学研究部の大学院研究組織とリンクした研究教育の母体として活動し、本教育部の大学院生、さらに医歯学総合研究科の大学院生の教育にあたっています。また、グローバルCOEプログラムやメディカル・トップトラック(MTT)制度の確立プログラムなどの外部資金を獲得し、ポストドクタルフェローと合わせた特任教員等の増員がなされ、若手研究者の育成を積極的に推進しています。

#### 広報活動

本研究所の教育・研究活動は毎年発行される年報により英文和文にて公表されています。また国内外より世界的な研究者を招いた国際シンポジウムを毎年開催し、MGHをはじめ世界の研究機関との研究協定を結ぶなどの国際社会に向けての発信を続けています。さらには高校生・大学生・一般の方々を対象としたオープンキャンパスを毎年開催し、社会に開かれた研究所としての活動を行っています。

## 保健管理センター

Health Service Center

### 医療従事者を目指す学生たちの健康管理をサポート

学生と教職員に対する心身の健康の保持・増進を支援することを目的に運営されています。  
湯島地区5号館2階にありますが、国府台地区管理研究棟3階にも分室がありますので、  
健康面に関して安心して学生生活を送ることができます。

#### 定期健康診断

教養部学生(医学科1~2年、保健衛生学科1年、歯学科1~2年、口腔保健学科1年)は市川の国府台地区で、専門課程の学生は湯島地区でそれぞれ実施しています。その他にも必要な健康診断を実施しており、学生の健康管理をサポートしています。

#### 疾患予防(ワクチン接種など)

ウイルス等の感染予防のために、種々の下記ワクチン接種を実施しています。  
特に、医療系の大学として良質な医療人を養成するためにも最低限欠かせないワクチンの接種ですので、必ず受けるよう学生に指導をしています。

麻疹(はしか)ワクチン	風疹ワクチン	ムンプス(おたふく)ワクチン
B型肝炎ワクチン	水痘(水疱瘡)ワクチン	破傷風ワクチン



#### 健康相談

健康上の心配事や、人間関係、勉学上の悩みなどさまざまな相談に応じています。保健管理センターでは、どんなことでも気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりを心がけています。

#### 治療活動・専門医への紹介

小さな怪我や風邪、頭痛・腹痛などの症状がある場合には、当センターにて簡単な応急処置を行っています。また、必要に応じて専門科への紹介もしています。ベッドも用意していますので、少し横になって休みたい場合にも、当センターを利用できます。

## 附属図書館

University Library

### 本館 (湯島地区)

医歯学系の専門図書15万冊が所蔵されています。書籍だけではなく、著名な医学分野の教科書および参考図書を電子書籍として141タイトル、医歯学分野の学習・研究にはかかせない電子ジャーナルを約4800タイトルおよびデータベースを9タイトル提供しています。これらは、学内ネットワークを使って、教室や演習室からも利用できます。閲覧室の座席数は142。20台のPCと、自分のPCを接続できる情報コンセントが30口、プリンタが1台設置されています。歯学部校舎棟にある附属図書館分室にも、コンセント20口、プリンタ1台が設置されています。他にグループ学習に利用できる演習室が6室あります。レポートの作成や自主的な学習を進められる環境があります。学部や大学院の授業の中では、文献検索の演習、著作権や情報セキュリティの説明、教室の無線LANを使う場合の支援などを図書館職員が行っています。附属図書館では、このように毎年新しいサービスの提供を開始しています。開始時には、外部講師を招いて講習会を開催し、終了後には講習会の映像や資料を学内ネットワークに配信しています。

利用時間: 平日8:30-22:00、土・日・祝日9:00-17:00  
休館日: 年末年始 (12/29-1/3)

**国府台分館 (国府台地区)**

教養課程での学習に必要な幅広い分野の図書約8万冊が所蔵されています。閲覧室の座席数は、125。自分のPCを持ち込み、無線LANを利用することができます。ホールにはPC10台とプリンタ1台が設置されています。

利用時間: 平日9:00-20:00 (授業開講日)  
平日9:00-17:00 (上記以外)  
休館日: 土・日・祝日、年末年始 (12/29-1/3)

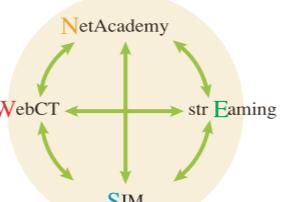
**e-learning**

e-learningとは、webやPCなど各種の情報技術を使った学習形態のことです。本学では基礎医学英語学習NetAcademy、医歯学シミュレーションSIM、映像配信streaming、学習管理WebCTの4つのシステムで構成しています。NetAcademyでは、感冒や骨折、狭心症などの症例について、医師と患者の英語の会話を聞いたり、ウィルスやクローンといった医学関連の英文トピックを読むことが、自分のペースでできます。streamingでは、授業やセミナー、臨床医の基本技能、医療英会話などの映像を提供しています。いつでも自分が見たい時に学内のどこからでも、アクセスすることができます。WebCTにアクセスすると、教材のダウンロード、オンラインテスト、グループディスカッションなどを行うことができます。学内だけではなく、自宅からレポートを提出したり、休講情報を確認するといった使い方もできます。SIMは、本学の教職員が開発しているマルチメディアシミュレーション教育システムです。本学附属病院で実際に行われた診療の映像や音声、検査の写真などから、学習者が診断や治療の手順をシミュレートし、その判断や選択の適否を学習するものです。附属図書館では、これらのシステムの管理や学習者からの操作方法の質問に応対しています。

**http://lib.tmd.ac.jp**




**http://lib.tmd.ac.jp/bunkan/bunkan.html**



**http://lib.tmd.ac.jp/el.html**

## 学生支援制度

東京医科歯科大学では、各種奨学金・授業料免除をはじめとする経済的支援や、勉学・教育・ストレスに悩む学生の心身のケアなどを通じて、入学から卒業まで「快適な学生生活」をバックアップしています。

### ■学生寮

千葉県市川市の国府台地区に学生寄宿舎（男子寮 定員132名）、国際学生宿舎（女子寮 定員50名）を備えています。（現在改修計画検討中 入寮定員変更予定）

### ■授業料等

#### ◇入学に関する経費

入 学 金	282,000円
授 業 料	535,800円
そ の 他	テキスト代等の費用

#### ◇入学料免除・授業料免除

##### 入学料免除

入学前1年以内に学費負担者が死亡、又は風水害等の災害を受けた場合、学長が相当と認める事由がある場合には、選考のうえ入学料が免除されることがあります。そのほか、入学料微収猶予制度もあります。

##### 授業料免除

①経済的理由により納付が困難であり、かつ学業が優秀であると認められる場合②入学料免除と同等の理由がある場合には、選考のうえ授業料が免除されることがあります。そのほか、授業料微収猶予制度もあります。

### ■経済支援制度

#### ◇日本学生支援機構奨学生制度

人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資の支弁が困難であると認められた者に対して次の学資が貸与されます。

第一種奨学金(無利子)	第二種奨学金(有利子)
自 宅 45,000円 (30,000円から希望により選択)	3万円、5万円、8万円、 10万円、12万円から 希望により選択
自宅外 51,000円 (30,000円から希望により選択)	

\*このほか、民間団体等の奨学制度もあります。

### ■学生教育研究災害傷害保険(学研災)

教育研究活動中の事故による災害の補償制度で、原則として強制加入となっています。保険料は6年間で8,400円(4年間で5,900円)で、正課・学校行事・課外活動中・通学中に傷害を被った場合、約款の定めに従い、死亡保険金・後遺傷害保険金・医療保険金が支払われます。

59

60

## 年間行事

大きな期待を胸に臨む入学式から、進学・就職に向けキャンパスを巣立つ卒業式まで。学内外で行なわれるさまざまな行事を通じて互いに親交を深め、有意義な学生生活を送っています。

- 4月  
●入学式  
●新入生オリエンテーション  
●健康診断  
●教養部ガイダンス  
●専門科目ガイダンス



- 5月  
●学内レガッタ  
●体育祭(教養部グラウンド)



6月  
7月

- 8月  
●東日本医科学学生総合体育大会「東医体会」  
●全日本歯科学生総合体育大会「歯学体大会」

- 9月  
●実験動物慰靈祭

- 10月  
●歯学部歯学科合宿研修  
●文化祭(お茶の水祭)  
●創立記念日10月12日  
●解剖体慰靈式



11月

12月

1月

2月

- 3月  
●医学部医学科合宿研修  
●卒業式

## サークル活動

14の文化系サークルと24の体育系サークルがあり、国府台地区・湯島地区にある各施設や学外のフィールドで活発に活動を展開。学部・学科を越えた友情の輪を広げる場にもなっています。

### 文化系

- English Speaking Society (E.S.S)
- お茶の水管弦楽団(オーケストラ部)
- 混声合唱団(コーラス部)
- 公衆衛生予防医学研究会
- Modern Jazz Diggers (M.J.D)
- コンピューター部
- 学生国際交流会 (S.S.I.A)
- Tokyo Medical & Dental Piano Club(ピアノの会)
- TMDU Emergency Medicine Study Sessions organized by students (TESSO)

### 体育系

- 漕艇部
- 男子ハンドボール部
- 勝道部
- ゴルフ部
- 柔道部
- 陸上競技部
- 茶道部
- サッカー部
- 劍道部
- スキーバイディング部
- 弓道部
- 男子バレーボール部
- 硬式庭球部
- 女子バレーボール部
- 硬式野球部
- アメリカンフットボール部
- ソフトテニス部
- 硬式野球部
- 卓球部
- バドミントン部
- ラグビー部



# 國際交流

# International Exchange

国際水準を超える医学教育の場であり、世界で通用する研究者・臨床医の育成を目指す東京医科歯科大学では、海外研修奨励制度を通じて、優秀な学生に海外での貴重な体験の場を提供。海外からも数多くの学部留学生や研究留学生を受け入れています。また、世界トップレベルの大学と学部等間協定を結び、学術交流も活発に行っています。



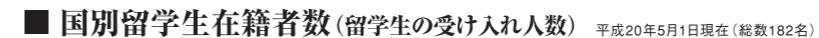
## 海外研修奨励制度



私はパリのパズツール研究所のUnité de recherche de Mycologie Moléculaireに4年次、プロジェクトセメスターの最後の一ヶ月間留学させていただきました。優れた研究者を生み出し、多くのノーベル賞を輩出しているパズツール研究所において研究成果を残そうとしても人と同じ事をしていたのでは同じ結果を得ることしかできない、そういう競争の激しい世界で生き残るべく、常に努力を怠らない指導教員の姿勢に私は実に感銘を受けました。

将来、臨床医学の道に進んだとしても、基礎医学の研究室で学んだ、常に探究心を持ち続け努力を続けるという精神を忘れずに、医学の発展に貢献していきたいと思います。このような機会を与えてくださった本学に心より感謝いたします。

矢田 沙和子さん（医学部 医学科 5年）



私は、英國のUniversity of Hertfordshireに付随する研究機関、CRIPACC (The Centre for Research in Primary and Community Care) で公衆衛生と予防教育について学ぶ機会を頂きました。研修中には、病院見学、大学院生とのディスカッションや保健師活動などを体験することで、日本との相違を肌で感じてきました。どの研究者や看護師も、出会う人みんなが自分の仕事に誇りと情熱をもっており、時には、今後の医療について白熱した論議となり、時間を忘れて話し合いをするっていました。素晴らしい先生方や友人に恵まれ、かけがえのない出会いを数多くし、成長して帰ってくることができました。これから入学するみなさんも、是非このようなチャンスに挑戦してみてください。きっと、新たな世界・自分に出会えるはずです。

高祖 麻美さん（医学部 保健衛生学科 看護学専攻 4年）



私は大学3年次の夏にフィンランドのseinajoki central hospitalで病院研修をさせていただきました。そこで北欧での治療のスタイルを見学したり、実際にセミナーや勉強会にも参加させていただき、とても充実した日々を送ることができました。北欧の予防医療の定着や入院日数の短さなど、日本とは異なる点が多く驚きの連続でした。

李 悅さん（医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻 4年）



私は本学歯学部と学術交流協定を締結している、英国のKing's College London Dental Instituteにおいて、2週間、英国の学生と共に臨床教育を受ける機会をいただきました。日本と英国で社会的背景は異なりますが、国が抱える歯科医療の問題に対して学生が懸念に取り組む姿というのはやはり国という枠を超えて共通であり、これから歯科医療を背負っていく学生同士が、国籍に関係なく直接語り合い、互いの考えを共有するというチャンスは、私にとって非常にかけがえのないものでありました。

この海外研修によって得たものは今でも私の宝物であり、海外に立派な歯科医を目指して勉学に励んでいる学生が大勢いるということが、今の自分にとって何よりの励みになっています。

森下 真紀さん（歯学部 歯学科 5年）



2009年2月から3月にかけて、アメリカのシアトル、スポケーン、フィラデルフィアで、研修を行ない、アメリカの歯科衛生士の状況やその教育について多くのことを学んできました。シアトルで訪れたデンタルオフィスでは、歯科衛生士の業務を見学し、歯科衛生士が専門家として活躍し、尊敬されている姿が強く印象に残りました。東ワシントン大学では、とても温かく受け入れていただき、さまざまな講義や実習に参加させていただきました。そこでの学生たちの積極的に学ぶ姿勢や将来への明確なビジョンに大きな刺激を受けました。

この研修は、自分自身の歯科衛生士という職業に対する考え方や日本の現状について深く考える機会となり、今後の学びにつながる貴重な経験となりました。本研修の機会を与られたこそ、そしてお世話になった方々に心から感謝しております。

川瀬 喬子さん（歯学部 口腔保健学科 4年）



## 入試情報

### 東京医科歯科大学の入試

東京医科歯科大学では「一般入試」と「特別入試」の試験を行っています。一般入試は、大学入試センター試験と分離分割方式(前期日程・後期日程)で行われる個別学力検査を実施します。特別入試は、大学入試センター試験を課さない推薦入試と私費外国人留学生特別入試があります。その他に、学士編入学試験・3年次編入学試験があります。

#### ●一般入試・推薦入試

	募集人員	前期日程	後期日程	推薦入学
医学科	85名	75名	10名	
保健衛生学科 看護学専攻	55名	35名		20名
保健衛生学科 検査技術学専攻	35名	30名		5名
歯学科	55名	40名	15名	
口腔保健学科	27名	22名	5名	



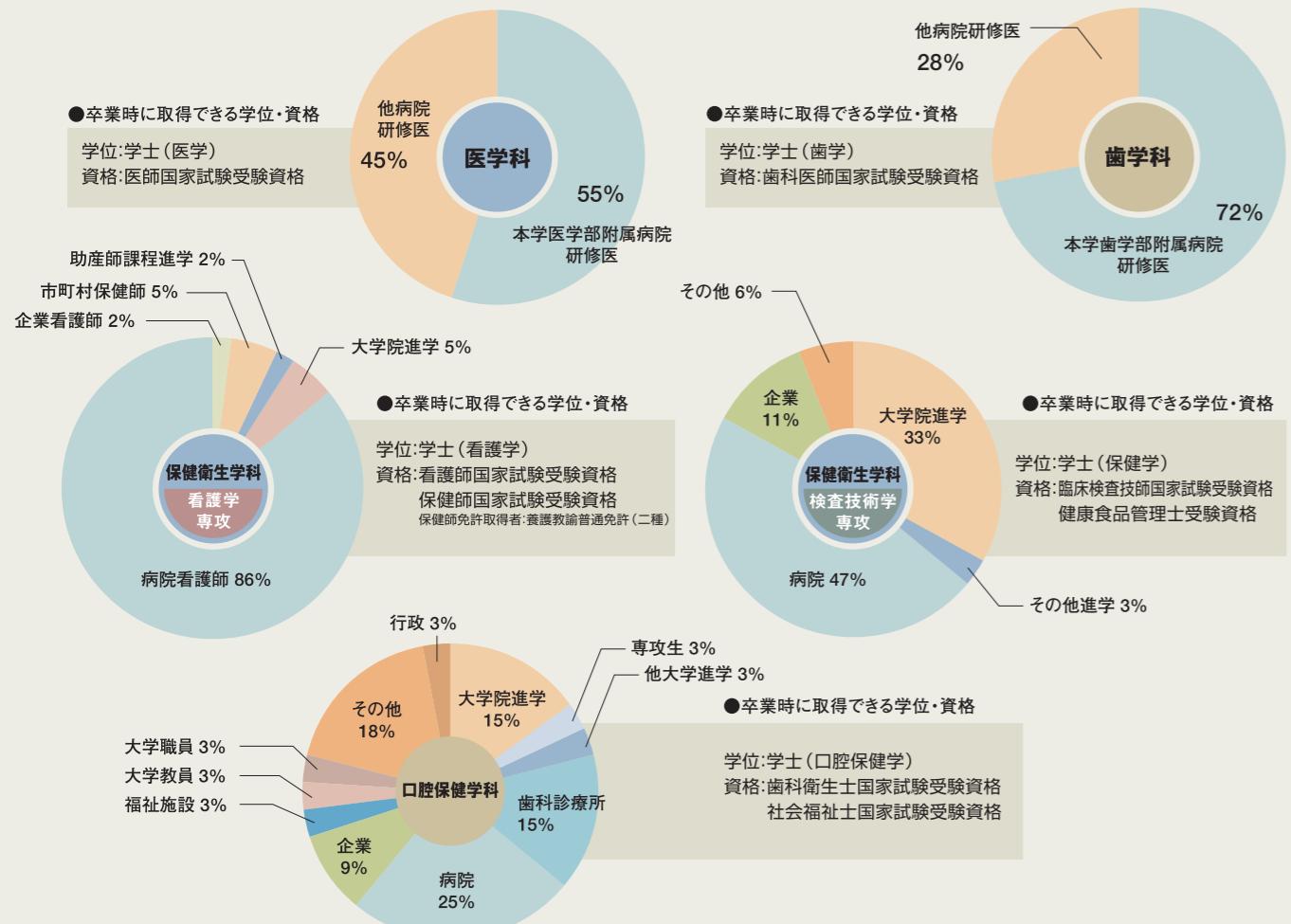
#### ●学士編入学

	募集人員
医学科	5名
歯学科	10名

#### ●3年次編入学

	募集人員
口腔保健学科	6名

### 卒業後の進路(平成20年度卒業生)



## 沿革

昭和3年、日本で初めての国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校創立。そして昭和19年には、東京医学歯学専門学校と改名し、医学科を設置。東京医科歯科大学は、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。



明治32.4	東京医術開業試験附属病院(永楽病院)(現在の千代田区丸の内1・2丁目)
大正6.8.1	歯科医師開業試験附属病院(東京帝国大学医科大学附属医院分院(通称:小石川分院)と同居)
大正7.6	歯科医師開業試験附属病院(東京外国语大学のテニスコート跡地に建物を建築)
大正11.1	歯科医師附属病院(改称)
昭和3.10.12	東京高等歯科医学校
昭和5.12	東京高等歯科医学校(現在地へ移転)
昭和19.4	東京医学歯学専門学校(医学科設置)
昭和21.8	東京医科歯科大学(旧制)
昭和21.10	予科設置
昭和24.6	医学部附属病院 歯学部附属病院
昭和26.4	東京医科歯科大学(新制) 医学部医学科・歯学部歯学科
昭和30.4	大学院医学研究科・大学院歯学研究科 医学・歯学進学課程(千葉大学文理学部内)
昭和33.4	附属図書館分館設置(国府台分校) 医学・歯学進学課程(国府台分校)
昭和40.4	教養部
昭和41.4	歯科材料研究所が「医用器材研究所」へ改称
昭和45.4	健康管理センターの設置
昭和48.9	難治疾患研究所の設置
平成元.4	医学部保健衛生学科新設
平成11.4	大学院医歯学総合研究科の設置 生体材料工学研究所へ改組
平成16.4	歯学部口腔保健学科新設

### 募集要項等の請求方法

募集要項等の請求は下記のテレメールによる発送サービスをご利用ください。

インターネット(携帯電話・パソコン)でご利用できます
<a href="http://telemail.jp">http://telemail.jp</a> パソコン・携帯電話各社共通アドレス
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。

下記URLより、本学ホームページからもテレメールにアクセスできます。

<http://www.tmd.ac.jp/cmn/nyushi/nyutop.htm>